

西大門刑務所歴史館

【閲覧注意】 韓国の歴史を知りたい方におすすめ！ソウルで刑務所観光をしてみた

2019 年 1 月 25 日



韓国ソウルには華やかな観光スポットが満載ですが、ちょっと違うアングルから韓国を試してみるのもおすすめです。特に日本人にとっては気軽なテーマではありませんが、韓国の歴史や日韓の近代史について考えるのならソウルの「西大門刑務所歴史館」がぴったり。

今回は、そんな西大門刑務所歴史館についてご紹介します。

※閲覧注意※ 凄惨な表現や写真があります。

韓国の歴史を語る「西大門刑務所歴史館」



今回ご紹介するのがこちら「西大門刑務所歴史館」です。日本植民地時代に独立運動家たちが収容されており、第二次世界大戦後には韓国政府が使用していたという獄舎などを保存・公開している施設になります。

日本植民地時代の監獄や死刑場、独立運動の取り調べの様子などを、実際の史料や再現された人形などを通して知ることができます…。



だいぶよくなっているという「反日感情」ですが、一部の韓国人の中にはそういった感情を持っている人がいるのも事実。

私は韓国が好きで韓国に住んでいますが、韓国人の中で生活していく上で、韓国の歴史や日韓の近代史についても少しは知っておく必要があるなと思い、今回この西大門刑務所歴史館に足を運んできました。



西大門刑務所歴史館の入口には、日本語パンフレットも用意されていました。館内でも日本語で説明文が書かれているものもあれば、書かれていないものもあります。（韓国語と英語のみとか）一応もらっておくといいかも。

それでは、西大門刑務所歴史館の見所について見ていきましょう。

西大門刑務所歴史館の見どころ

刑務所歴史室



まずは、西大門刑務所歴史館の「刑務所歴史室」です。刑務所歴史室では、日本植民地時代の刑務所や朝鮮総督府に残されていた史料を元に作られた、1930年の建物の配置図に模型、写真などが展示されています。



展示物の中には日本語が記載されているものもあり、かつて本当にこの場所で、日本人が韓国人を…と思うと、ぞっとしました。

民族抵抗室



次は「民族抵抗室」です。刑務所建設の頃から始まったという植民地化の過程、そしてそれに抵抗する独立運動、独立運動家の訓練に連行、会議の様子など、当時の様子をよりリアルに知ることができる写真や映像などを鑑賞することができます。

写真の「追慕空間」では、約 5000 人分の受刑記録の複製が張り詰められています。

すごい数ですが、それでも実際の受刑者数の 8 分の 1 程度なんだそうです…。

他にも、独立運動家を連行するために使用されていたという笠や、重りの付けられた鎖なども見ることができました。

拷問体験室



一番衝撃的だったのが「拷問体験室」です。刑務所内に設けられていた拘置所、拷問室、遺体を運び出すための死刑場の地下部分などが実物大で作られており、人形でその当時の様子がリアルに再現されています。

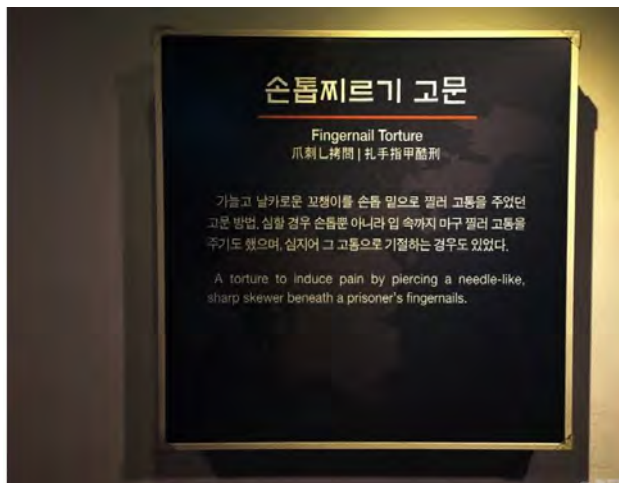
拷問室では、人が人に対してする行為とは思えないような、酷い拷問の様子が再現されていました。



「水拷問」は、水槽に頭を無理矢理沈めたり、鼻や口に水を注ぎ込んで呼吸困難に陥らせて苦痛を与えたという拷問方法だそうです。さらには、肺に水が溜まることによって胸膜炎にかかり、苦しみながら亡くなっていった人もいたとのこと…。



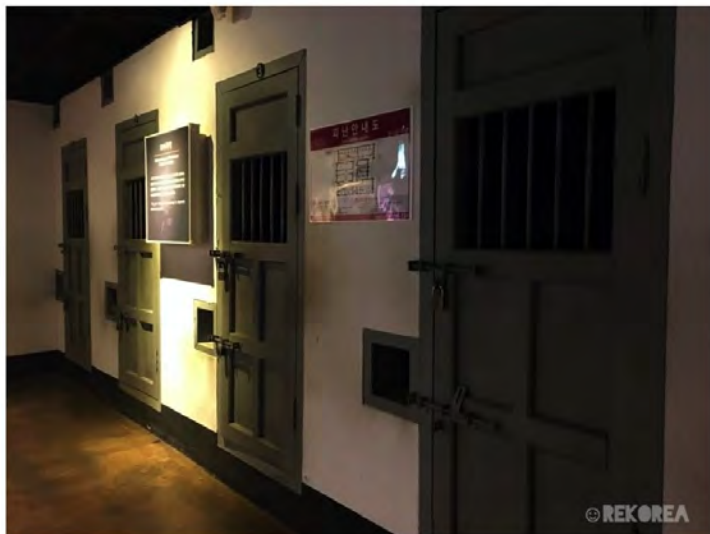
「爪刺し拷問」などもありました。この爪刺し拷問や爪剥がし拷問は、あまりにも凄惨な拷問方法であるため、2010年の改修工事をきっかけに再現に使用されていた人形は取り除かれてしまったとのことです。



爪刺し拷問は、細くて鋭い串を爪の下から刺して苦痛を与えたという拷問方法だそうです。酷いときには爪だけでなく、口の中までもを刺して苦痛を与え続けたこともあったとのこと…。あまりの苦痛に気絶する人もいたのだそうです…。



何もない小さな拘置所もありました。展示物なので鑑賞用に照明がありましたが、当時はきっと暗闇だったのだと思います。どんな気持ちでこんな場所に収容されていたのかと思うと…、胸が痛みます…。



拷問体験室で見ることのできる展示物は、どれも衝撃的なものばかりでした…。目を伏せたくなるような光景ばかりでしたが、それでも西大門刑務所歴史館の中では一番当時の様子を分かりやすく知ることができる見所ではないかと思います。

獄舎



刑務所としての機能が終了し、閉鎖された当時に残っていた 15 棟の獄舎のうち、7 棟がそのまま保管されており見学することができます。

そのうち 1915 年に造られた 10~12 獄舎は、現存する最古の煉瓦造りの獄舎なのだそうです。獄舎の内部はもちろんですが、外観にも注目してみてください。



11 獄舎、12 獄舎は中まで入ることができ、通路の両側にずらりと並んでいる監房の様子を見ることができます。特に独房は真っ暗で、「墨部屋（モッパン）」と呼ばれていたのだそう…。獄舎はどこも薄暗く緊張感があり、ぞっとするような雰囲気を感じました…。

「反日感情」はなぜあるのか…。



一部の韓国人の中に「反日感情」というものがなぜあるのか、じっくりと考えたことはありますか？私は、これまでそんなに深く考えたことはありませんでした。

でも、今回西大門刑務所歴史館で韓国の歴史に触れてみて、もし私がこの当時の韓国人だったら、当時をよく知っている韓国人だったら、と思うと、そういった感情が残ってしまうのも仕方がないことなのかもしれないとも思いました…。

西大門刑務所歴史館は日本政府が建てたという建物で、館内に保管されている史料は日本語で記載されているもので、当時実際に拷問に使用されていたという物が保管されていたりと、当時の様子を生々しく知ることができました。

特に拷問の様子はかなり衝撃的で、どれだけ痛くて、苦しくて、怖かっただろう、と思うと、言葉にもなりません…。

韓国ドラマや韓国映画から感じる「反日感情」

ちょっと余談なのですが…。

韓国ドラマや韓国映画の中には、日韓の歴史を描いているストーリーが多く、韓国でもかなり人気があります。こういった内容のドラマや映画が公開されるたびに、日本で話題になっているようです。

これに関しては、日本がちょっと敏感になりすぎているのかな、と思います。

というのも、日韓の歴史を描いている韓国ドラマや韓国映画は、あくまでもドラマや映画。どんなドラマや映画も同じだと思いますが、どれだけ面白いものにするか、という気持ちで作られているんです。

だから実話を元にしていてもフィクション要素はもちろん含まれています。そんなドラマや映画を見ている一般の韓国人も、その内容を真に受けたりしていません。

私が初めて日韓の歴史を描いた映画を観に行ったとき、正直少し怖かったんです。観に来ている人はみんな反日なんじゃないかと…。笑

でも、そこで韓国人が評価しているのは「日本人」ではなくて「映画の面白さ」。ロコミなんかを観ても、映画そのものが評価されているだけです。「日本人が見ると気分良くないかもしれないけど、ドラマや映画としてはやっぱり歴史物が面白い」という声もありました。

基本的には、日本を好きな韓国人が多いです。韓国に住み始めてひしひしとそれを実感しています。当サイト「REKOREA」を見てくださっている方のように、韓国を好きな日本人もたくさんいます。

日本人にとっては決して気分のいいものではないかもしれませんが、韓国側の歴史を知ることによって、韓国をより深く理解することができるのかなと思います。

施設情報

施設名	西大門刑務所歴史館 (서대문형무소역사관)
住所	서울 서대문구 통일로 251
電話番号	02-360-8590
開館時間	3月～10月 9:30-18:00 11月～2月 9:30-17:00
休館日	毎週月曜日 (祝日の場合は翌日) 元旦・旧正月・秋夕当日
アクセス	地下鉄3号線独立門駅 (돈니문역/동립문역) 5番出口から徒歩5分
その他	閲覧所要時間は1時間から1時間半程度あれば十分です。

施設名 西大門刑務所歴史館 (서대문형무소역사관)

住所 서울 서대문구 통일로 251

電話番号 02-360-8590

開館時間 3月～10月 9:30-18:00

11月～2月 9:30-17:00

休館日 毎週月曜日 (祝日の場合は翌日)

元旦・旧正月・秋夕当日

アクセス 地下鉄3号線独立門駅 (돈니문역/동립문역) 5番出口から徒歩5分

その他 閲覧所要時間は1時間から1時間半程度あれば十分です。



地下鉄 3 号線独立門駅（ドンニンムン駅/동립문역）5 番出口を出ます。



すぐ左に松林があるのですが、「서대문형무소역사관（西大門刑務所歴史館）」と書いてある看板があるので、それに沿って松林を登っていきます。



松林を抜けたところに、西大門刑務所歴史館の入口が現れます。この大きい門ではなくて、そのすぐ隣にある小さな門が入口となっています。



入口を入るとすぐ左手にチケット売り場があるので、ここで料金を支払います。

チケット料金

大人（満 19～64 歳） 3000 ウォン

中高生（満 13～18 歳） 1500 ウォン

小学生（満 7～12 歳） 1000 ウォン

満 6 歳以下・65 歳以上 無料

その他 団体割引有

	チケット料金
大人（満19～64歳）	3000ウォン
中高生（満13～18歳）	1500ウォン
小学生（満7～12歳）	1000ウォン
満6歳以下・65歳以上	無料
その他	団体割引有

さいごに

いかがでしたか？

韓国の歴史を知ることのできる、西大門刑務所歴史館についてご紹介しました。韓国ソウルには華やかな観光スポットが溢れていますが、違うアングルから韓国を見つめることのできるこういった施設もあるんです。

気軽に楽しめるような施設ではありませんが、日韓の歴史に興味がある方、韓国をより深く理解したいという方にはおすすめです。確かに重い内容ではありましたが、私は行って見てよかったと思いました。

ソウルの西大門刑務所歴史館で考えたこと 2013/1/15



西大門刑務所館の正面入り口

韓国の首都ソウルには、日本人が建築した建物が今も多く残っています。銀行、デパートなど比較的大規模で、戦後も利用価値の高かった建物です。

その中に刑務所も含まれています。西大門刑務所と呼ばれ、ソウルの中心街に近い場所に建てられたレンガづくりの刑務所です。刑務所自体は別の場所に移転し、歴史館となって、施設が一般公開されています。昨年ここを訪れたので、少し書いてみます。

明治時代、日本の各地に建設された刑務所は、レンガづくりが一般的でした。一部はまだ日本にも現存しています。

暗いイメージを少しでも変えようというのでしょうか、クラシックなデザインで、まるで大学の門のような立派な造りになっていしました。西大門刑務所もその流れをくんでいます。日本は韓国に近代化をもたらせたという論議があります。

日本の統治時代に、朝鮮半島の人口が倍増している。識字率も一桁しかなかったのが、統治時代にほぼ国民皆教育となった。小学校、中学校、高校、そして旧帝国大学まで開校している。衛生状態もよくなり、鉄道等のネットワークも整備された。

ただし、その前提は、「完全なる植民地支配」を目指すものだったことは忘れるべきではないでしょう。さらに、日本の敗戦、韓国でいう「光復」後も、韓国は日本支配時代の影響を色濃く受け継ぎながら、開発独裁から高度成長、さらに民主化につながっていきます。そういった日本がもたらせた光と影を、最も象徴的に伝える建物が、西大門刑務所だと思います。

年間六十万人が訪問するそうです。外国人訪問者は六万人、そのうち日本人が四万人を占めています。日本の若者も多いそうです。歴史館では日本語のパンフレットも売られていますが、日本では詳しいガイドブックがありません。機会があれば、詳しく調べたいと、個人的に資料を集めています

歴史館の展示は三十五年間の植民地支配時代の反日闘争が中心になっています。日本の官憲によって厳しい拷問を受け、亡くなった人たちの写真や記録が復元され、収録されています。かなり刺激的な内容です。

しかし実は、この刑務所は戦後の歴史の方が長いのです。現在社会の中核をになう人たちの中にも、民主化運動に参加して、ここに拘置された記憶を持つ人たちも多いのです。

そもそも韓国では刑務所と政治運動は切っても切れない関係でした。歴代の大統領経験者の中にも、獄中で長期間暮らした経験を持つ人が少なくありません。

たとえば「死刑囚から大統領に」と言われ、後にノーベル平和賞を受けた故金大中・元大統領は、人生で五回死線を越え、六年間の監獄生活を送りました。さらに数十年にわたる亡命と軟禁生活を味わっています。そういう受難の時代にたくさんの本を読み、指導者としての力を付けたのです。雑草は、コンクリートで覆われても少しの隙間を見つけて伸びてきます。むしろたくましさを増し、コンクリートを押しのかます。

展示で、日本による戦前の弾圧を強調するのは仕方がないにしても、民主化運動を弾圧し、活動家を刑務所に入れた軍事独裁時代についても積極的に公開して欲しいと思うのは私だけではないでしょう。

軍事独裁時代は、大統領に当選した朴槿恵さんの父、朴正熙大統領の時代でした。この時代に民主化運動に参加して有罪判決を受けた人たちの再審裁判が最近あいついでいます。

その結果、無罪判決が続々と出ています。当時の捜査や判決に違法性があったと認定されているのです。それだけではありません。

実は、戦前、この刑務所に投獄された人の中には、地元の人たちとともに抵抗運動を行った日本人もいました。三宅鹿之助という京城大学の先生でした。この本に詳しい紹介があります。只、意志あらば（外部リンク）

戦後、民主化闘争のため、ここに投獄された人たちを、日本の人権団体が本や衣服の差し入れをして、支援しています。一般の人が参観できる刑務所は台湾にもありますが、離島に建っており、行くのは簡単ではありません。西大門刑務所歴史記念館は、都心にあり、アクセスも良好です。

もしソウルに行くチャンスがあったら、日本と韓国の歴史を考えるうえでも、訪れてみてください。ちなみに日本でも大ヒットした砂時計という連続テレビドラマは、この刑務所で収録されたそうです。まずドラマを見てから訪問するのも手かもしれませんね。

地下鉄の独立門駅から徒歩3分ほど。入場料は1500ウォンで、月曜日が休館です。詳しい展示内容はこちら。西大門刑務所歴史館（外部リンク）

西大門刑務所歴史館

ソデムン ヒョンムソ ヨッサグァン / 서대문형무소역사관 登録者：konest さん



独立と民主化の苦難の運動が刻まれた西大門の歴史館

日本植民地時代に独立運動家らを収監し、第二次大戦後は韓国政府が使った獄舎などを保存公開している西大門刑務所歴史館。ソウル市中心部の北西に位置する西大門独立公園内にあり、植民地時代の監獄や死刑場、独立運動の取り調べの様子を史料や人形で再現しています。建物は、終戦までに2階建て煉瓦造りの獄舎など10数棟や死刑場、死刑囚の獄舎群が造られ、1987年に刑務所としての機能は移転して、歴史館として開館。2010年の改修後は凄惨な拷問描写は減らして、戦後の韓国の民主化運動の展示もあります。独立門(トンニンムン)も建つ西大門独立公園内にあります。

約100年前の獄舎が林立



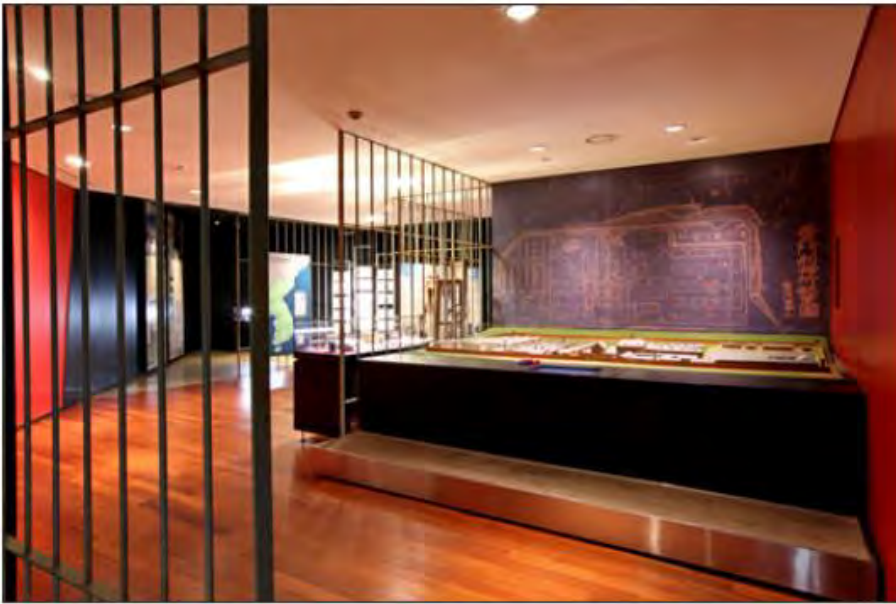
日本植民地時代に独立運動家らを収監し、第二次大戦後は韓国政府が使った獄舎などを保存公開している西大門刑務所歴史館。

ソウル市中心部の北西に位置する西大門独立公園内にあり、植民地時代の監獄や死刑場、独立運動の取り調べの様子を史料や人形で再現しています。建物は、朝鮮半島で初めての近代的な監獄として日本政府が1908年に建

築。終戦までに2階建て煉瓦造りの獄舎など10数棟や死刑場、死刑囚の獄舎群が造られ、日本植民地時代に朝鮮半島に設けられた刑務所の中で最大規模でした。

1987年に刑務所としての機能は移転、閉所した後、歴史館として1998年に開館し、現在は約10棟の建物が建っています。2010年の改修後は凄惨な拷問描写は減らして、戦後の韓国の民主化運動の展示を取り入れています。

展示館(保安課庁舎)



刑務所の保安課庁舎だった建物で、地上1、2階は主に史料やパネルで、地下は人形などで刑務所の様子を紹介しています。1階から2階、地階へと見ていき建物の裏手から出る順路です。

1階にある映像室は30分おきに上映されるので、時間を見て立ち寄るといいでしょう。

1階：刑務所歴史室



1930年代の建物の配置図と模型

植民地時代の刑務所や朝鮮総督府に残っていた史料を元に作った1930年代の建物の配置図や模型、閉所時の写真などを展示。刑務所の規模や概観を振り返っています。独立運動の主な事件が起きるたびに収監者が増えていった推移や朝鮮半島で28カ所まで増えた刑務所の位置などをパネルで説明。

日本語が書かれた建物の部材や、第二次大戦後に収監者が使ったゴム靴や洗濯用の棒も展示しています。

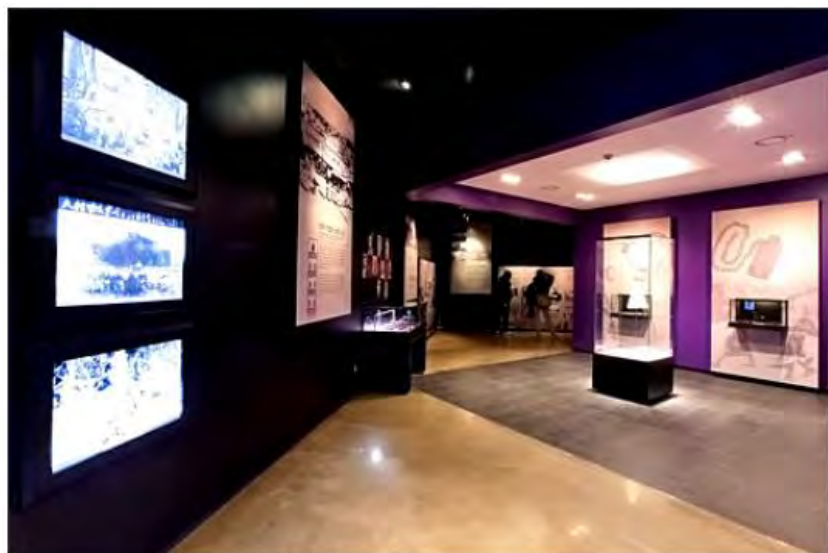


日本語が書かれた建築部材



収監者が使ったゴム靴など

2階：民族抵抗室



植民地化を説明する展示

<民族抵抗室 1>

刑務所が建てられるころから始まった植民地化の過程とそれに対抗した独立運動について、運動家の訓練や連行、会議の様子などを絵や写真、映像などで説明。運動家の連行などの際に使った顔を隠す笠や手錠、重りのついた鎖の実物もあります。

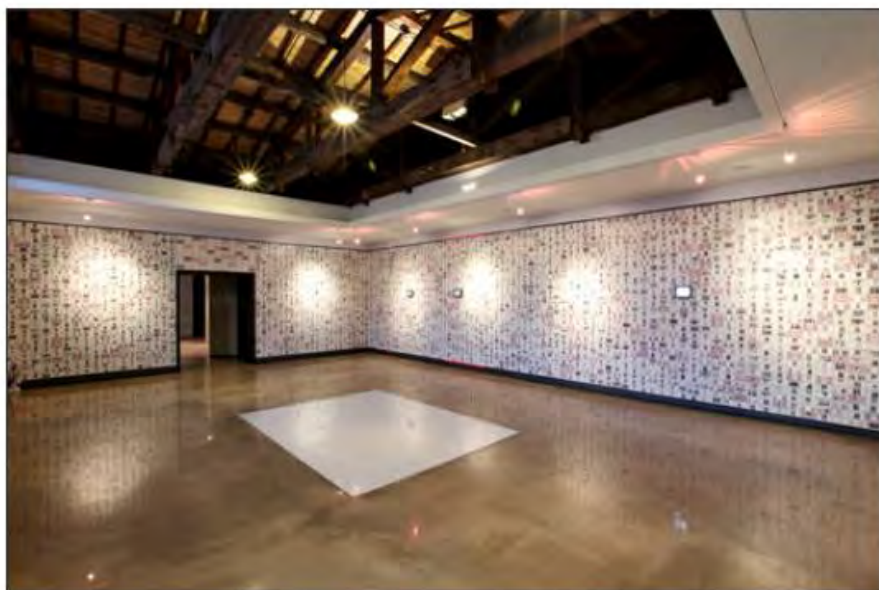


運動家の連行に使った笠



重りのついた鎖

<民族抵抗室 2>



追慕空間と名付けられ、独立運動に努めた愛国の志士を称えるために約 5000 人分の受刑記録票の複製が壁 3 面に張りつめてあります。

記録票は終戦時に日本が刑務所を引き渡した際に処分されなかったもので、通算収容者のおよそ 8 分の 1 にすぎないと言います。

<民族抵抗室 3>



独立運動を紹介する展示

日本植民地時代の後半期、韓国語使用を弾圧した事件や独立運動家が中国などの海外に拠点を移した変遷などをパネルや写真で説明。韓国人の運動家をかくまって逮捕、収監された三宅鹿之助・京城帝国大学教授も主要な韓国の独立運動家の一人として紹介されています。

地下：拷問体験室



監視する看守の人形

刑務所内に設けられた拘置所や拷問室、監房、遺体を運び出す死刑場の地下部分をほぼ実物大に作り、取り調べや監視の様子を人形も使って再現。

収監者を小さく閉じ込めたり、立たせたままにしたりした拷問器具もあります。以前あった、爪をはがしたりする凄惨な拷問の人形などは取り除かれています。



死刑場の地下室



取り調べの再現

獄舎



刑務所を閉所したときに残っていた 15 棟の獄舎のうち保安課庁舎を含む 7 棟が保存されています。そのうち 10～12 獄舎は 1915 年に造られた現存する最古の煉瓦造りの獄舎です。

また受刑者を強制的に働かせた工場にあたる工作舎で、実際に造られた物品も見学できます。

中央舎



戦前からほぼそのまま残る建物で、人形も使って看守の事務所を再現。身体を痛めた収監者の写真や元収監者の談話、著名な運動家の回想録などで厳しい獄中生活を振り返っています。

建物の一角が 10、11、12 獄舎とつながっており、同時に 3 棟を監視できる構造です。

11・12 獄舎

10 獄舎とともに、通路の両側に監房が約 10 室ずつ並び、2 階で看守が監視する様子が再現されています。監房は、冬は大変寒く、特に独房は真っ暗で「墨部屋(モッパン)」と呼ばれていました。12 獄舎は収監者が壁をたたいて隣の監房と連絡をとったり、独立を主張して万歳したりする人形が置かれ、11 獄舎は監房の中まで立ち入れます。



暗い獄舎

9・10 獄舎



ともに内部は立ち入れませんが、10 獄舎は中の通路まで見通せます。

9 獄舎は、独立運動の政治思想主導者ら特別な人物を収監した建物で、外観しか見られません。

野外展示

塀やハンセン病舎がほぼそのまま現存しているほか、同所で亡くなった独立運動家をたたえるオブジェなどがあります。死刑場は 1923 年に造られ、10～12 獄舎とともに 1988 年に史跡に指定されています。

死刑場



木造平屋で内部に死刑囚や執行立会人が座る席などが設けられています。建物の周りは高さ約 5 メートルの壁で囲まれており、入口わきに、中に連れて行かれる死刑囚がすがりついて泣いたとされる「慟哭のポプラ」と呼ばれる木が立っています。

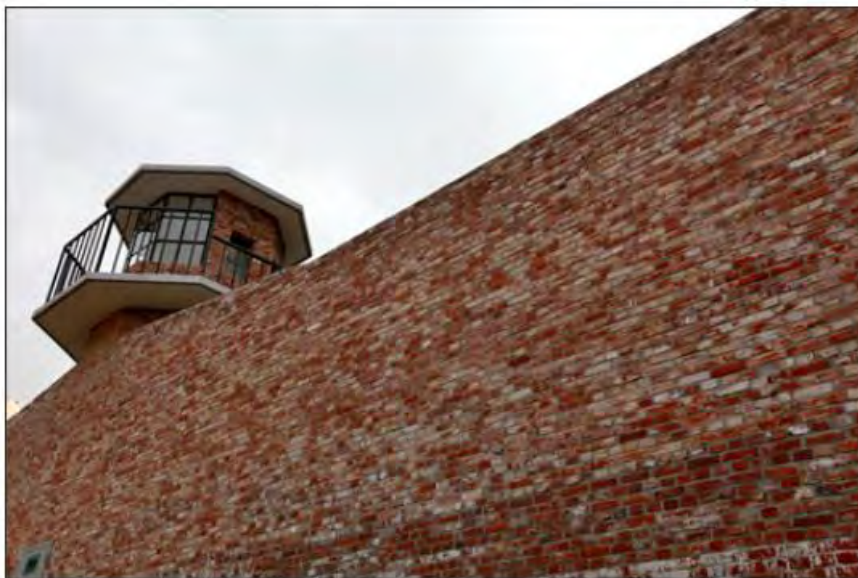
柳寛順(ユ・グァンスン)地下監獄



第二次大戦後に発掘、復元されました。女性の独立運動家を収監、取り調べるために 1916 年に造られた地下の監房。

一畳ほどの広さの独房 4 室があり、三・一独立運動の象徴的人物で同刑務所において死亡した柳寛順らが拷問されたといえます。

塀・望楼



塀は高さ 4. 5 メートルで、刑務所を囲んでいた長さ約 1200 メートルのうち刑務所の前後の 2 カ所に計約 280 メートル残っています。

望楼は高さ 10 メートルで、元は塀の 6 カ所にありましたが、現在は前部と後部に 1 カ所ずつ残っています。

近代史を考える見学に好適



日本が韓国を植民地化する際に建てられた刑務所をテーマにした同館。日本人にとっては気軽なテーマではありませんが、日韓の近代史を考える意味では有意義な現場見学になるでしょう。

また同館がある西大門独立公園は、地下鉄3号線独立門(トンニンムン)駅に隣接しているうえ、韓国の恒久的な独立を願って建てられた独立門(トンニンムン)などの文化財や緑もあり、市民の憩いの場にもなっています。

料金

大人 満19歳～満64歳	3,000ウォン
青少年(中学生) 満13歳～満18歳	1,500ウォン
子ども(小学生) 満7歳～満12歳	1,000ウォン

※65歳以上と6歳以下は無料
※団体割引あり(20名以上)

・基本情報	
店名	西大門刑務所歴史館
住所	ソウル特別市 西大門区 岬底洞 101 (서울특별시 서대문구 현저동 101) [道路名住所] ㉠ ソウル特別市 西大門区 統一路 251 (서울특별시 서대문구 통일로 251)
電話番号	02-363-9750～9751
Eメール	なし
営業時間	{3～10月}9：30～18：00{最終受付17：30}、{11～2月}9：30～17：00{最終受付16：30}
休業日	月曜 ※月曜が祝日の場合、営業し翌日休業。1月1日、旧正月・秋夕(チュソク)の当日
日本語	不可
その他外国語	不可
支払方法	ウォン
交通	・地下鉄3号線独立門(トンニンムン、Dongnimmun)駅 4番出口 徒歩3分
関連サイト	www.sscmc.or.kr/foreign/jp/introduction.html
詳細情報	・バリアフリー施設：車椅子用トイレ、車椅子レンタル
こだわり	検索 検索 検索 検索 検索 検索 検索
備考	・日本語表示：一部あり(日本語パンフレット、一部展示に日本語表示)

基本情報

店名 西大門刑務所歴史館

住所 ソウル特別市 西大門区 岬底洞 101

(서울특별시 서대문구 현저동 101)

[道路名住所]

ソウル特別市 西大門区 統一路 251

(서울특별시 서대문구 통일로 251)

電話番号 02-363-9750～9751

Eメール なし

営業時間 {3～10月}9：30～18：00{最終受付 17：30}、{11～2月}9：30～17：00{最終受付 16：30}

休業日 月曜 ※月曜が祝日の場合、営業し翌日休業、1月1日、旧正月・秋夕(チュソク)の当日

日本語 不可

その他外国語 不可

支払方法 ウォン

交通 ・地下鉄3号線独立門(トンニンムン、Dongnimmun)駅 4番出口 徒歩3分

関連サイト www.sscmc.or.kr/foreign/jp/introduction.html

詳細情報 ・バリアフリー施設：車椅子用トイレ、車椅子レンタル

こだわり 無料散策夜景・ムード文化財世界遺産ファミリー

備考 ・日本語表示：一部あり(日本語パンフレット、一部展示に日本語表示)

■地図





布施辰治の紹介



只、意志あらば

植民地朝鮮と連帯した日本人

著者：後藤守彦著

定価：本体 2000 円＋税

ISBN：978-4-8188-2107-1

判型：四六判

頁：230 頁 刊行：2010 年 04 月

ジャンル：歴史（人文・社会）

内容紹介

三宅鹿之助（京城帝国大学教授）、**布施辰治（弁護士）**、金子文子（アナキスト）はなぜ独立運動・革命運動に立ち上がった植民地朝鮮の民衆と連帯したのか、その真実に迫る。

目次

本書への誘い 趙景達

はしがき

序章 民族差別意識の成立

偽造で始まった朝鮮侵略／五〇年戦争の開始／朝鮮人に対する蔑視・差別意識の形成／差別意識の根拠／同調競争と日本人

第一章 三宅鹿之助の決断

朝鮮の革命運動に参加した日本人／植民地朝鮮の弾圧体制／朝鮮共産党の歴史／京城帝国大学助教授三宅鹿之助／ベルリン留学／「城大反帝同盟事件」／三宅鹿之助への判決／労作『李載裕とその時代』／三宅鹿之助の証言／十二月テーゼの翻訳／とっさの決断／決断の重み／三宅鹿之助の上申書／転機としての植民地朝鮮／布施辰治との接触／出獄後の三宅鹿之助

第二章 **布施辰治の不屈**

韓国建国勲章を受けた初の日本人／「生くべくんば民衆と共に、死すべくんば民衆のために」／「自己革命の告白」／弁護士資格の剥奪と投獄／朝鮮人との連帯／初めての渡朝と義烈団／関東大震災／小樽高商軍教事件／朴烈・金子文子事件／朝鮮共産党事件／思想家としての布施辰治／布施辰治の思想基盤／墨子／トルストイ／杜生と命名された三男／『レ・ミゼラブル』／入党しない共産主義者／ヘッケル／利他の精神

第三章 金子文子の意志

「朝鮮民族としての文子」／『何が私をこうさせたか』／無籍者であった文子／冷たい教員たち／朝鮮での少女時代／朝鮮体験のもつ意味／朴烈との邂逅／社会主義批判／虚無主義／作家・思想家との出会い／アルツィバーシェフ／シュティルナー／自己を見つめる／金子文子の死

あとがき 参考文献

韓国 西大門刑務所記念館 拷問写真

2019 年 10 月 7 日（人間自然科学研究所のホームページより）

韓国 西大門刑務所記念館・安重根義士記念館訪問

韓国訪問

9 月 30 日から 10 月 3 日にかけて韓国の西大門刑務所記念館と安重根記念館へ訪問致しました。写真集にまとめましたので御覧ください。

今回のポーランド訪問では、ベルタ・フォン・ズットナー像作者のイングリッド・ロレマ氏も合流し、オペラ観劇の他にアウシュヴィッツ＝ビルケナウ強制収容所やワルシャワ蜂起記念碑など歴史的な記念館へも訪問させていただきました。



西大門刑務所歴史館正門（大韓民国・ソウル市）

はじめに

法律に触れなくても、刑務所に入れられる者たちがいる。また罪がなくても、拷問で命を落とす者もいる。何処の国でも、いつの時代でも、そういう者たちが存在する時代がある。彼らは「政治犯」と呼ばれる。かつて日本国内でもそういう時代が長く続いた。

「日帝時代」、植民地となった朝鮮半島では、日本の覇権主義、植民地支配に反対する愛国の指導者だけでなく、市井の人民にまで仮借ない弾圧迫害が加えられた。その牙城となったのが、この西大門刑務所であった。日本は第二次大戦敗戦前、これらの証拠書類を焼却破棄し、施設は埋めて消し去った。

この「刑務所」も戦後、韓国民の熱意と努力で再発掘し整備されてきた。従って、決して十分とは言えない資料・展示だが、「日帝」による植民地支配の過酷さの一端を感じていただければ幸いである。



西大門刑務所俯瞰配置模型（1945 年当時）

< 刑務所歴史館発行の公式ガイドより転載 >

西大門刑務所歴史館

ソウル特別市西大門区山見底洞 101

Tel 02-363-9750 Fax 02-363-9752

地下鉄 3 号線 獨立門駅下車

夏：9:30～18:00 冬：9:30～17:00

入場料：W1650

日本語ボランティア案内あり（要予約）

京城市・西大門刑務所の歴史

「日帝」＝日本帝国による長い朝鮮人民支配の時代、その牙城となったのがこの刑務所であった。愛国者を含めた多くの朝鮮の人々が連行され、拷問暴行を受け、この場所で処刑された。そういう意味では、この刑務所こそが誇り高い朝鮮、韓国の人たちの怨嗟の聲が向けられた場所であったといえよう。

既述の如く、**ここは日本敗戦前に証拠隠滅のために土で埋められ、書類は焼却処分された。**ちょうど中国・旧満州の大日本帝国陸軍 7 3 1 部隊が、「人体実験」の証拠隠滅のため、施設を破壊したのと同様なことを行った。ヨーロッパでは旧ナチ（ス）が敗戦直前、強制収容所を破壊したように、侵略者破壊者はいつの時代も、行動は同じである。

韓国民は**そういう破壊を修復し資料を収集して**、朝鮮民族の歴史の大事な一部として、子々孫々、子どもたちへの歴史教育の材料として、建物を「歴史館」として永久保存することにした。因みに、この刑務所のある「獨立公園」は、他に獨立宣言記念塔や獨立門など「朝鮮民族」のアイデンティティーを保持する大切な財産が多くある。そういう意味では、獨立公園すべてが「民族の財宝、心のよりどころ」といってもよい。

この刑務所の簡単な歴史は、下記のサイトの「刑務所の歴史ページ」に分かりやすくまとめているので、引用転載したい。ソウル市・公園局公式サイト

西大門刑務所歴史館サイト

以下の欄の記述は上記歴史館サイトより全文を転載した。

もとより記述文の著作権はすべて歴史館にある。（C） Soedaemun Prison History Hall

ソウル特別市西大門区冥底洞 101 番地に位置した西大門刑務所は、大韓帝国の末頃に日帝の強圧によって監獄が建てられた以来 80 年余り、韓国の近現代史の激動期における受難と民族の恨（ハン）が滲み混んでいる歴史の現場であると共に、韓民族の抗日獨立運動に対する日帝の代表的な弾圧機関である。

日帝は韓国を強制的に占領し、この地を足掛かりとして大陸へ侵略しようとする野慾を本格的に展開する一方、その侵略に抵抗する数多くの愛国志士たちを投獄させるための監獄の必要性を感じるように

なった。それで大韓帝国時代に自主独立の象徴として建立された独立門の近くに 1907 年より大規模な監獄を建て始めた。

この監獄は、日本人の設計により当時の貨幣で約 5 万圓をかけて建てられ、その規模は 480 坪の監房と 80 坪ぐらいの附属施設であり、収容人数は 500 人余りであった。当時、全国 8 ヶ所にある監獄の総計収容人数が 300 人余りに過ぎなかったのと比べると、どれ程大規模な監獄であったかが察せられる。

1908 年 10 月 21 日、京城監獄という名で活動し初めた。韓国の国権が日帝に奪われると、これに抗う民族独立運動が全国で激しく起り、日帝は数多くの祖国愛国志士たちを逮捕・投獄した。しかしその収容人数が増えると、麻浦区孔徳洞にもう一つの監獄が建てられた。そして 1912 年 9 月 3 日、**西大門監獄**とその名が変わる。

1923 年 5 月 5 日、**西大門刑務所**とその名がさらに変わり、1945 年 8 月 15 日の終戦まで数多くの愛国志士が投獄され、拷問を受け処刑されたり獄死した悪名高い場所である。

以後その名は 1945 年 11 月 21 日に**ソウル刑務所**、1961 年 12 月 23 日にソウル矯導所、更に 1967 年 7 月 7 日にはソウル拘置所と次々と変わり、1987 年 11 月 15 日にソウル拘置所が京畿道儀旺(ウイワン)市に移していくまで、まさにその名の变りのほど数多くの民族受難の歴史を納めたまま 1992 年 8 月 15 日、「西大門独立公園」として開園するに至った。

1987 年に京畿道儀旺市へ移る時、獄舎は全部 15 ヶ棟あったが、現在はその歴史性と保存の価値を配慮した上、7 つの棟のみ原形のまま保存されている。中でも獄舎 3 ヶ棟(第 10、11、12 獄舎)と死刑場は 1988 年 2 月 20 日に史蹟第 324 号と指定された。

西大門区では 1995 年より西大門独立公園の史蹟地に対する聖域化事業に取り掛かった。祖国の独立のため日帝の侵略に対抗し戦いながら投獄され、酷い拷問と弾圧を受けた末、殉国した愛国先烈たちの魂を慰めると共に、先烈たちの自主独立精神を教え悟らせる、生き生きとした歴史の教育場として改造され、**「西大門(ソデムン)刑務所歴史館」**として新しく生れ変わり開館されたのである。

以上の引用転載について刑務所歴史館に感謝を申し述べる。

(C) 2003 Original Copyright by Seodaemun Prison History Hall
BACK (C)2003 All Rights Reserved by KK

京城・西大門刑務所・建物写真と説明



外から見た刑務所正門と壁（現在壁はこの一角だけ保存されている）

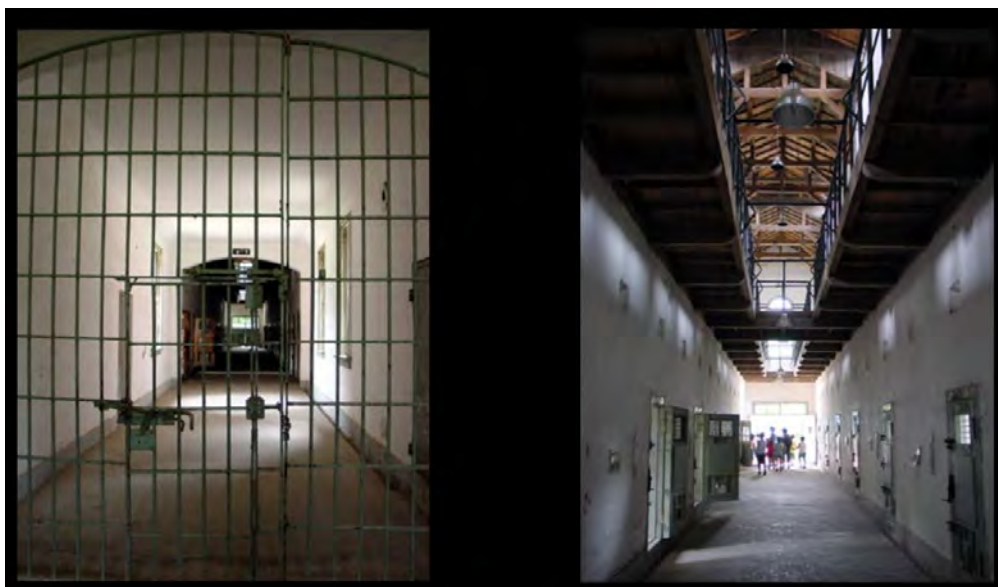


内から見た刑務所正門と壁（左が保安課庁舎・改装済）



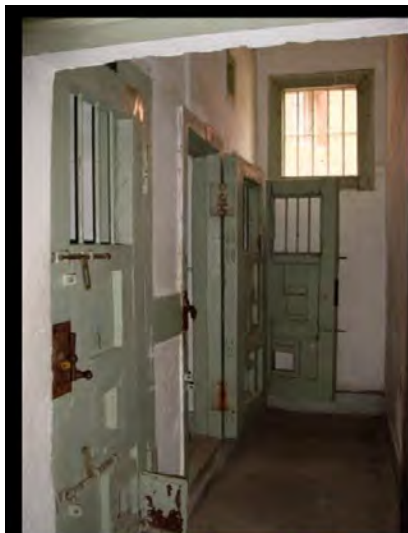
正門内部正面にある保安課庁舎（内部構造は当時のまま）

第 10,11,12 獄舎と中央舎を外から望む
（中央舎を要に獄舎は放射状に配置される）



第 1 1 獄舎の内部入り口

第 1 2 獄舎内部廊下（上部の 2 階部分が死刑囚房）



第12獄舎内の韓国指導者用独房

第 1 2 獄舎内の韓国指導者用独房



右ー第13獄舎(工作舎・軍需用品を生産した)

右ー第 1 3 獄舎 (工作舎・軍需用品を生産した)



第11獄舎外壁(壁の白い部分は施設を取り払った後)

第 1 1 獄舎外壁 (壁の白い部分は施設を取り払った後)



第11獄舎と戦後に作られた池

第 1 1 獄舎と戦後に作られた池



ハンセン病と伝染病の隔離病舎(山際にポツンとある)

ハンセン病と伝染病の隔離病舎（山際にポツンとある）



隔離病舎の死者を運んだ地下通路入り口
(階段は監視塔に続く)

隔離病舎の死者を運んだ地下通路入り口
(階段は監視塔に続く)



小泉首相も参拝した犠牲者慰霊碑
(中央部分の解説を母が子どもに読んで聞かせている)
(犠牲者の氏名が彫られているが書類消滅のため実数は少ない)

小泉首相も参拝した犠牲者慰霊碑
(中央部分の解説を母が子どもに読んで聞かせている)
(犠牲者の氏名が彫られているが書類消滅のため実数は少ない)



死刑場入り口と処刑者が取りついて号泣したポプラの木
(内部にもう一本ポプラがあるがなぜか大変細い)

死刑場入り口と処刑者が取りついて号泣したポプラの木
(内部にもう一本ポプラがあるがなぜか大変細い)



死刑場建物正面
(教師が児童生徒を連れて歴史学習に来る)



死刑場内部(テーブルに指揮官が座って執行命令を下した)

死刑場建物正面
(教師が児童生徒を連れて歴史学習に来る)

死刑場内部 (テーブルに指揮官が座って執行命令を下した)



「恨み」の死刑台の縄(椅子が下に落ちて刑を執行する)



処刑者が落ちた死刑台の地下室

「恨み」の死刑台の縄 (椅子が下に落ちて刑を執行する) 処刑者が落ちた死刑台の地下室



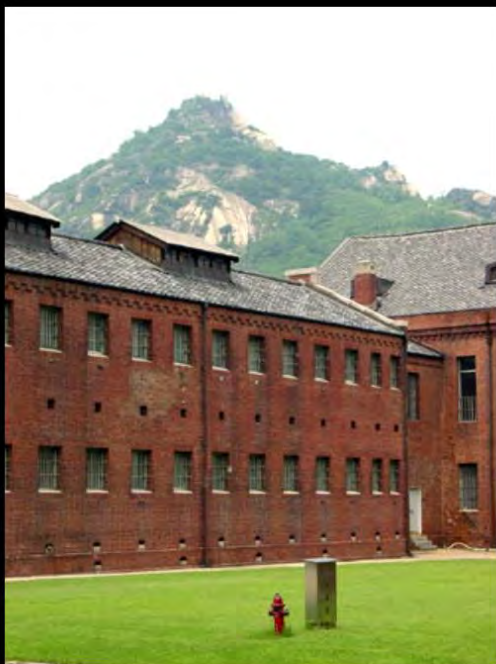
処刑された死体を運び出す出口



密かに死体が運ばれた地下通路入り口
(終戦前日本が埋めてしまったが戦後発見発掘された)

処刑された死体を運び出す出口

密かに死体が運ばれた地下通路入り口
(終戦前日本が埋めてしまったが戦後発見発掘された)



死体が捨てられた山(向こう側)
(山犬が多くいて夜になると死体を食ったという)



第10,11,12獄舎と中央舎
(写真の人物がいるところや左側に最初の獄舎基礎部分がある)

死体が捨てられた山 (向こう側)
(山犬が多くいて夜になると死体を食ったという)

第 10,11,12 獄舎と中央舎
(写真の人物がいるところや左側に最初の獄舎基礎部分がある)



女1獄舎外観
(女性用はこの横にもう一つあった)



女1獄舎内部(地下房)を上から俯瞰
(天井部分は取り払ってある・部屋の高さは1.4mという)

女1 獄舎外観
(女性用はこの横にもう一つあった)

女1 獄舎内部 (地下房) を上から俯瞰
(天井部分は取り払ってある・部屋の高さは 1.4m という)

ここは日帝が1916年抗日闘争した女性達だけを取監するために建てられた。
地下には愛国志士達を隔離収容するための独監房を設置して取り調べと拷問の場所として使われた。
1934年頃、獄舎を改築しながら埋めた地下を1992年独立公園造成の時発掘、復元した。特に、ここは柳寛順烈士が日帝の弾圧に抗拒して殉国した所で、柳寛順窟とも言う。
柳寛順烈士は天安市並川面アウネ市場で独立万歳運動を主動した後逮捕され、公州監獄に投獄されてから1919年8月1日西大門監獄に移った。
3・1運動1周年の1920年3月1日に同僚投獄者達と大規模の獄中示威後、地下の独房で日帝の残酷な拷問と栄養失調で同年10月12日獄中殉国した。

上写真の説明板の日本語部分
(この上に韓国語と英語で同様の説明がある)



殉国した柳寛順女史・日本官憲の拷問で顔が腫れあがっている

上写真の説明板の日本語部分
(この上に韓国語と英語で同様の説明がある)

殉国した柳寛順女史・日本官憲の拷問で顔が腫れあがっている

「韓国のジャンヌ・ダルク」柳寛順烈士の略歴/「柳寛順烈士記念祠堂」(リンク)
監獄内のようなす(所内の説明板より)

監獄内のようなす(所内の説明板より)

日帝は監獄を韓民族弾圧の重要な手段としたために、監獄は継続して増設されたにもかかわらず、収容できる監房が絶対的に不足していた。
1908年全国に8ヶ所の監獄が設置されたが監獄としての施設がきちんと整っていたのは京城監獄だけであり、それ以外の監獄は不完全なオンドルの監房が2~3個あっただけであった。しかし1908年末に収監人数はすでに2,000人を越えており、一坪当たり7.9人が収容されており、監獄の衛生・食料の配給状態はまるで獣の檻に等しかった。大部分の監房は陽あたりや風通しが悪く、暗くジメジメしており、トイレもなく部屋の中で用を済ませなければならなかった。
また、獄舎には日を追って収監人員が増加し、監房は座る場所もないほどだった。収監された人びとは横になることもできず、ずっと、またはずっと交代で寝たほどだ。また伝染病などの疾病が流行し死亡者が続出した。
特に日帝時代の監獄内での一番の苦痛は飢えであった。収監者の食事の主食は米10%、麦(または粟)50%、豆40%と決まっていたが、日帝末期には戦争の影響で食料が不足し豆の代わりに豆かすが支給され、最後にはそれさえも量が大幅に減ったために収監者は栄養失調となり、ついには餓死した。

本館(保安課庁舎)内部展示(地下一階)

日本官憲による拷問・人形と音声による再現ディスプレイ・・・拷問の声や呻き声も再現され非常にリアルである。これらを正視するのは、日本人にはつらいものがある。日本人の人形は大変人相が悪く作られている。再現展示は「アウシュヴィッツ収容所」より強烈。



牢内での刑事による独立宣言文についての尋問(左が韓国人)



逆さ吊りと水攻めによる拷問(水には唐辛子が入る)

牢内での刑事による独立宣言文についての尋問 (左が韓国人)

逆さ吊りと水攻めによる拷問 (水には唐辛子が入る)



電気ショックによる拷問



むち打ちによる拷問

電気ショックによる拷問

むち打ちによる拷問



ツメの間に尖った金属を差し込む拷問



女性の乳首を切り取る拷問(床には大量の出血)

ツメの間に尖った金属を差し込む拷問

女性の乳首を切り取る拷問 (床には大量の出血)



真っ暗な一畳ほどの牢(長くなると精神異常を来すという)



未婚女性の乳房をむき出し他による性拷問

真っ暗な一畳ほどの牢 (長くなると精神異常を来すという) 未婚女性の乳房をむき出し他による性拷問



打ちのめされて房に引きずられる「被疑者」



警官によるこん棒殴打

打ちのめされて房に引きずられる「被疑者」

警官によるこん棒殴打



日本人刑事(左)による取り調べ



娘の服を無理やり剥ぐ

日本人刑事(左)による取り調べ

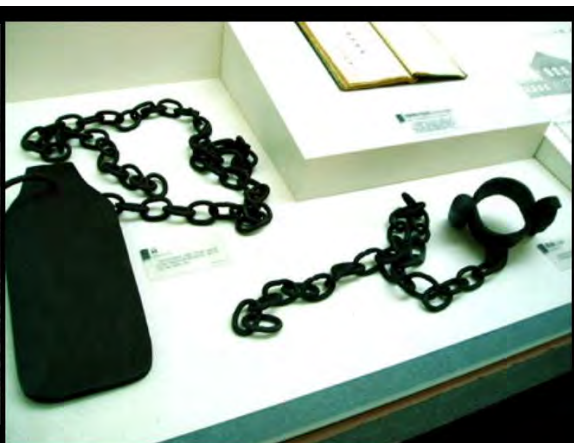
娘の服を無理やり剥ぐ

本館（保安課庁舎）内部展示（二階） （展示品の一部のみ）

年表、写真、説明文、現物、模型、ホログラムによる事件再現コーナーなどの展示



山に立てこもって戦った義兵（日本語でゲリラ）
は捕まると見せしめのため公開処刑（絞首）にされた



「囚人」につけた手枷などの拘禁具

山に立てこもって戦った義兵（日本語でゲリラ）
は捕まると見せしめのため公開処刑（絞首）にされた

「囚人」につけた手枷などの拘禁具



「囚人」にかぶせた鉄帽、右の藁製は死刑執行直前用



棺型拘禁具

（左端に人形が入っている）

（右端に入って「体験」できる）

これに入れられると身動きできず
早く死ぬという

「囚人」にかぶせた鉄帽、右の藁製は死刑執行直前用

＊その他には、「看守の日本刀で頭の耳付け根を切り落とされパッキリ脳がはみ出ている死体の写真」があったが、酷たらしくて撮れなかった

BACK

(C)2003 All Rights Reserved by KK

まとめ



何処の国でも歴史的に大切なものがある。その中の重要部分が「世界遺産」である。国連の機関であるユネスコは、各国政府に働きかけて推薦リストを作成してもらい、その中から慎重な審査をして決定をしてゆく。したがって、その国（国民）の考える大切なものは網羅されているはずである。今回訪れた大韓民国のそれは以下である。

まとめ

何処の国でも歴史的に大切なものがある。その中の重要部分が「世界遺産」である。国連の機関であるユネスコは、各国政府に働きかけて推薦リストを作成してもらい、その中から慎重な審査をして決定をしてゆく。したがって、その国（国民）の考える大切なものは網羅されているはずである。今回訪れた大韓民国のそれは以下である。

＊（社）日本ユネスコ協会連盟公式サイトより転載

大韓民国

- ・ 八萬大蔵經の納められたカヤサンヘインサ | ●
- ・ 宗廟（チョンミョ） | ●
- ・ 昌徳宮（チャンドグン） | ●
- ・ 水原（スーウォン）の華城 |
- ・ 石窟庵（ソククラム）と仏国寺（プルグクサ） | ●
- ・ 高敞（コチャン）、和順（ファスン）、江華（クアンファ）の巨石墓跡 |
- ・ 慶州（キョンジュ）歴史地域 |

それらは、日本からもツアーを組んで観光客が訪れる場所である。しかし、今回筆者が訪れた場所はひとつもない。それではさほど韓国民には重要ではない場所のだろうか？答えは勿論、「否」である。西大門刑務所歴史館は、筆者が通った二日間に、多くの保育園児から高校生までが、教師に連れられ「歴史学習」に来ていた。熱心にメモする中学生も多くいた。

ある韓国人の日本語ガイドはこう言った。「いま、わたしたちの国があるのは、こういう人たちのおかげです。国がなくなる—ということがどんなことか、よく分かります。平和のありがたさも分かります。こういうことは、次の世代にも伝えることなのです。」と。

「負の世界遺産」として有名な「アウシュヴィッツ強制収容所」は、確かに「ユネスコ世界遺産」だし、広島原爆ドームも同様である。しかし、この西大門刑務所は登録されていないし、中国人が埋められた中国の「万人坑」も、ピカソの絵画で有名なスペインのあの「ゲルニカ」の町もまったく登録されていないのである。またこの時点で、ユネスコ日本サイトHPには、アフガニスタン（仏教とシルクロード関係）は登場していない。*どんなに歴史的に価値があっても、内戦状態だった国では、まずは「生きる」ことが優先されるのであろう。

*私は個人的には、「タリバン」に破壊された「バーミアンの石窟・石仏」をぜひ世界遺産にしてほしいと思う。そこは、破壊され石片しか残っていないが、シルクロード史、仏教史からいうと大変な価値があるからである。ポーランド・ワルシャワの「旧歴史地区」も、ナチスの空爆で建物すべてが破片になり、長

年の苦勞の末に再建して世界遺産指定を受けた例がある。

そこには、他国への政治的配慮やその国独自の事情やその政府の考え方があるであろう。しかし「戦争は人類の最大の罪惡」ということを考えると、どんな「負の遺産」でも登録し、世界に知らせること、そして語り継ぐことが肝要なのである。

さて、前置きが長くなったが、今回筆者が訪れた「刑務所、紀念館、公園」はすべて、朝鮮半島が日本に支配されていた時の「遺物、形見」である。韓・朝鮮民族にとっては、「消し去ってしまいたい場所」かも知れない。しかしながら、ガイドの方が言っていたように、彼らの血と涙の貢獻がなかったら、現在の大韓民国の發展はなかったように思われるし、彼らの強い「アイデンティティー」はなかったかも知れない。*

*日本人は、韓国・朝鮮人たちがスポーツ競技で、「対日本」になると必死になって戦い、勝とうとする姿をずっと見てきた。「日本にだけは負けたくない！」そう見えた。これも歴史の「不幸な出来事」から由来しているだろうことは、想像に難くない。

金大中政権になるまでの韓国民の「反日感情」は大変なものだった。雑誌や新聞などの日本語も表面的には禁止されていたし、かなり前のアンケートだが、大嫌いな国の2位が日本だった。（1位は当時のソ連、大好き1位はアメリカ）それは「自分の身内が日本人に非道い目に遭わされた、殺された」という理屈抜きの感情によるものであったであろう。

しかし最近の日韓関係は比較的良好で、昨年のサッカー世界大会共催では、「友情の輪」も広がった。日本の観光客も韓国の観光客も互いに訪問し合う感じになっている。ほとんどの日本人は、ミヨンドンでブランドを買い、ウオーカーヒルでギャンブルをし、美味しい韓国料理を食べ歩いている。また韓国人タレントが日本のTVに出たり、韓国語が話せる日本のタレントが韓国で「活躍」している。大変結構な交流ではある。

しかしながら、「歴史の事実」は永遠に消えてなくなることはない。人は「与えた傷み」は忘れるが、「受けた傷み」は決して忘れることはない。先述の「韓国語が話せる日本人タレント」が、韓国人の中で流暢な？韓国語を話していた。内容はよくは覚えてはいないが、ある中年韓国男性がこう言った。「あなたはそう言うが、韓国の歴史を知って言っているのか？」タレント「知りません・・・」。彼は何も言えなかった。そのあと、場が急に盛り下がってしまった。ほとんどの参加者は韓国の若者だったが、彼らもこれに同調し肯いていた。だれもそのタレントのバックアップはしなかった。しかし、今の日本の若者はそういうものなのだ。学校の社会科でも、ちゃんと習ってはいない。

戦争時まで兵隊だった日本人は「過去を忘れようとする」し、戦後育った若者は何も歴史を知らず「無邪気に仲良くしよう」とする。こういうのは、やはり両者ともすこし違う気がしてならない。歴史をよく知った上で、よく反省をしてから、お互いに交流をすべきであろう。

筆者が件の刑務所に行った時、案内のシンピルソン女史が「この慰霊碑の前で小泉首相は参拝しました。ここでは予定の時間を大幅に超過しました・・・」と説明した。彼女の言葉のニュアンスに、好意が含まれていた。何十年も前に「日本人によって殺された人々の慰霊碑」の前で、「加害者である日本人の代表である首相」がお参りするのだ。しかも予定時間を超過して・・・。死んだ者はもう還らないし、歴史もプレーバックはできないが、韓国人には若干よい印象を与えたに違いない。これらのことの積み重ねから、「近くて遠い国」が本当に「近くて近い国」になってゆくことであろう。

「秀吉侵略軍」に勝利した「救国の英雄」

李舜臣（イ・スンシン）将軍像

（鐘路区・世宗路）

終わりに

行き帰り含んで4日間—という短期間に回ったソウルの町ではあった。また一般的な「観光地」も行かず、買い物もせず、グルメもせず滞在した町ではあったが、ほぼ満足している。この春のポーランド・アウシュヴィッツ収容所から帰ってから、次はこの韓国に来たいと思っていたのだ。案の定、ある意味ではアウシュヴィッツより「インパクト」は強かった。それは死者数の多寡とかではない。先祖同胞が「隣国人」に犯した「罪、過ち」の痕跡を見て、体の中を流れる日本人という血が、「異常な反応」をしたからである。

私が二十年近く前に、三年間滞在したアフリカのアルジェリアは大変遠い国で、日本との確執や因縁は何もなかった。また当時「バブル」で大発展の日本がテレビで紹介されたこと、また当時のシャドリという大統領が、「工業化を日本に学べ」と演説していた。これらのことから日本の評判はよく、また子どもは「カラテ」とか言って話しかけてきた。

こういう国だったが、たったひとつ古いエピソードがあった。日本が朝鮮半島を植民地にした頃、当時フランスの植民地であったアルジェリアを、日本人が見学に来ていた。日本は開国してまだ日が浅く、「植民地経営」のなんたるかもわかっていなかった。そこで、「帝国主義の大先輩」で世界中に植民地を持っているフランスに「範を垂れて」いただいたのだ。その結果、「日帝」の冷酷なまでの「朝鮮経営」になってしまったのだ。実際、フランスの「アルジェ支配」もかなり「えげつないもの」だったという。独立までに多くの婦女子を含む非戦闘員が死亡した。警察力で人民を強圧的に支配する—というのも、「警察国家・フランス仕込み」かも知れない。

さて話は変わるが、よく「日本が朝鮮半島を植民地にしなかったら、半島は二分されなかった」といわれる。日本が負けて半島から撤退した後、朝鮮戦争が起こったが、これも人々に物質的、人的、精神的な大きな傷跡を残してしまったし、「北」を恨む韓国人が増えたのも事実である。何人かの老人と話をしたが、彼らは異口同音に「北に親・兄弟・戚親がいる。行方は知れない。「北」は教えてもくれない」と、

半ば諦めた様な口調で言うのだ。そしておしなべて、「北は信用できない」と言った。

滞在したホテルのエレベーターの中で、一人の「在日」韓国人中年女性と出会った。彼女は今は北海道の温泉ホテルの専務、ご主人が社長だと言った。降りてから立ち話をした。私が岡山だと知って、「むかし姫路にいた」と言った。しかし姫路では食べていけないし、差別も非道だったので、北海道へ渡り、札幌で裸一貫「焼き肉・飲み屋」から始めたという。そして苦労の末、現在は温泉ホテルを経営しているという。

私は「里帰りですか？」と訊いた。おそらく遠縁・親戚を訪ねたり、墓参りだろうと思ったのだ。答えが意外であった。「わたしたちに帰るところはありません。私は日本で生まれた二世ですから・・・」それでも、体に流れる血がこの地に来させるのだろうか。彼女は名刺を呉れた。韓国名だった。「国籍は韓国ですか？」と訊くと、「パスポートも韓国です」という。「男の子ども二人ともソウルに留学させました」私「三世でも韓国語は上手なんですか？」「いいえ、こちらに来て一年足らず、会話学校に通いました。」私「でも韓国籍だから、こちらでは差別はないでしょう？」またまた答えが意外だった。「子どもたちは苦労したようです。＜在日＞と言われていじめられたそうです。」

そういえば、日本のテレビのニュースで、一かなり前、「北朝鮮帰還事業」が始まり、勇んで「帰国」した「在日」達が、祖国で「在日」といわれ差別にあった-と報じていた。あれは「北」だけでなく、「南」で現在も現実にあることなのだった。歴史的に言えば、「在日」達は「好きこのんで日本に来たのではない」のに、なぜ祖国で差別されなければならないのか！？それとも「差別」は、世界中のすべての人間が持つ「もっとも普遍的なもっとも卑しい心根」なのか？、または「人間の悲しい性」なのか？中国の「華僑（華人）」も本国帰国時には差別されているのだろうか？

話は戻るが、彼女に「日本国籍を取ることはありませんか？」と訊いてみた。彼女はきっぱり「ありません！取りません！」と声を大きくして答えた。「むかし思ったこともあるけど、このままの方が良いです」「私の友人が、日本国籍を取ったら（帰化）、役所の書類に「新日本人」というような書かれ方をしました。この「新」がとれるのは、三代してからなんです。これで私は考えを変えました。」

いったん「日本人」になったら、「新」も「旧」もあるものだろうか！？明治期に「四民平等」といわれ、江戸時代まで差別されてきた「部落民」が「平民」になった。しかし書類では、「新平民」とかかれ、「シンヘイ」と呼ばれ、差別が続いた。これでは日本は「民主主義国家」ではなく、「封建国家」だ。ヨーロッパでも幾分は差別が残る*ものの、移民は条件を満たせば、比較的「市民権」が取れている。フランスのサッカーのヒーロー、ジダンも「アルジェリア移民の子」だ。

*「差別」は世界のほとんどの国・地域で見られる。日本でも既述の「在日」の人々に対しての他、旧「部落」出身者、「アイヌ人」、アジア系などに対して、現在でも存在する。世界では、ユダヤ人に対してのものが有名だが、アメリカでは「WTCビル爆破テロ」以来、アラブ系の人たちにも差別が行われてきている。ヨーロッパでも、イスラム系出稼ぎ者や少数民族、アフリカ系に対して、歴然と差別がある。

我が国封建時代の（武家）女性はよく、「三界に家なし」といわれ、大変つらい立場にあった。「在日」達は、戦後60年近くになっても差別を受け続けているのだ。まさに「戦前、戦後日本、母国」の三界に家がない感じである。日本が20世紀に入ってからやって来たことの「後遺症」が、未だに残っているといえる。「在日」にはまだ「戦後」が終わっていないのである。

（おわり）

特 記

豊臣秀吉の朝鮮侵略ならびに

明治期以降「日帝」・日本帝国主義によって

被害を受けられた朝鮮半島の方々、また戦時中「日本軍人・軍属」として

戦死された方々、日本軍に「従軍慰安婦」として連行され亡くなられた方々、

および日本国内で関東大震災時に日本人に虐殺された方々、日本の鉱山工場等で

暴行死、過労死された韓国・朝鮮、「在日」の方々のご冥福をお祈りします

李舜臣 安重根 @AhnJungGeun888・2018年3月1日

3・1 西大門刑務所は日本の植民地時代、独立運動家などが政治犯として投獄された。西大門刑務所の〔壁の〕レンガー一つ一つには苦難と死に立ち向かった崇高な話しが刻まれている、独立運動家をたたえ、"独立運動の現場"で記念式典を行う意義を強調した。

広瀬隆「キム・ヨナが歌った『3456』の意味」

連載「テレビ報道の深刻な事態」 広瀬隆

2019.7.24 週刊朝日



広瀬隆（ひろせ・たかし）／1943年、東京生まれ。作家。早稲田大学理工学部卒。大手メーカーの技術者を経て執筆活動に入る。『東京に原発を！』『危険な話』『原子炉時限爆弾』『FUKUSHIMA 福島原発メルトダウン』『第二のフクシマ、日本滅亡』などで一貫して原子力発電の危険性を訴え続けている。『赤い楯—ロスチャイルドの謎』『二酸化炭素温暖化説の崩壊』『文明開化は長崎から』『カストロとゲバラ』など多分野にわたる著書多数。



「3456」を歌うキム・ヨナ（y o u t u b eから）。3は三・一独立運動（1919年の反日国民総決起）、4は四・一九学生革命（1960年の李承晩政権打倒運動）、5は五・一八光州事件（1980年）、6は六月民主抗争（1987年6月10日から）



ソウルの西大門刑務所跡で開かれた3・1独立運動100年の記念集会
＝2019年3月1日（C）朝日新聞社

みなさん、キム・ヨナを知ってますよね。2010年のカナダ・ヴァンクーヴァー・オリンピックのフィギュアスケート金メダリストで、2018年平昌（ピョンチャン）オリンピックの最終聖火ランナーをつとめた韓国スポーツ界で人気No.1の女王です。

彼女は、もともと音楽の才能が抜群だからフィギュアの女王になったので、歌唱力も一流で、反政府ブラックリストを作成した朴槿恵（パク・クネ）前大統領とは“犬猿の仲”だった。今年3月1日、韓国民にとって一世紀の歴史を振り返る重要な記念日に「3456（スリー・フォー・ファイヴ・シックス）」という曲を彼女が素敵な声で歌ったのはそのためだ。

今年の100年前、1919年3月1日に、朝鮮を植民地化する日本に憤激する「三・一独立運動」が起こって、この日が現在の韓国の実質的建国記念日とみなされているのである。3月1日から5月まで激的な反日運動が朝鮮全土に拡大したのだが、日本の原敬（はら・たかし）内閣が軍隊を派遣して徹底的に弾圧し、7509人が大量虐殺されて独立運動は鎮圧されてしまった。朝鮮人死者は、朝鮮各地の記録を合計した正確な数字である。日本人は、実におそろしいことをした民族だ。

キム・ヨナの歌の最初の「3」が、この三・一独立運動の3である。「4」は、国家保安法の拷問国家を生み出した李承晩（イ・スンマン）政権を打ち倒すため1960年4月19日に起こされた学生革命運動の「4」月である。「5」は、光州虐殺事件の1980年「5」月18日で、「6」は盧武鉉（ノ・ムヒョン）と文在寅（ムン・ジェイン）が投獄された1987年の「6」月民主抗争だ。つまり3456の数字は、韓国の独立運動と、本稿で紹介してきた民主化を実現するために韓国民が命を懸けて闘った貴重な歴史を物語っていた。

そのような完全に政治的な歌をフィギュアスケート界の女王が歌うところに、韓国人の反骨精神を感じるのは、私だけではあるまい。その時、日本のテレビ報道界は改元なんかで騒いでるんだからね。

非常にはっきり意志を表明する韓国人

どこぞの国の総理大臣が「令和」は万葉集に由来するので初めて日本の古典に基づく元号だと言ったらしいが、そもそもその万葉集の原典は、岩波書店が出版した『新日本古典文学大系』の『萬葉集一』の注釈によれば、中国南北朝の詩文集『文選』に含まれた後漢の人、張衡の詩が本来の出典なので、中国、つまり外国の古典に由来しているんだぜ、おい、安倍君。

なぜこんな当たり前の史実を、日本のテレビ・新聞お抱えの知識人が指摘しないのかねえ。

こういう正論を言う私に対して、韓国人はこう言うのです。「広瀬さんは、日本では過激な人間だと思われるようだけど、全然過激じゃない。韓国の人あなたはあなたよりずっと感情が強いですよ」って。

その通り、非常にはっきり意志を表明する韓国人に比べれば、ここに記述していることなどは、ごく穏当な見解にすぎないので、テレビ報道界は激昂（げっこう）せず、冷静に自分の行為を観察したほうが賢明である。

さて、日本人に強制連行されて働かされた朝鮮人（現在の韓国人）に対して、韓国大法院（最高裁）が

日本企業に賠償を命じたことにかこつけて、日本のテレビ報道界が、「日韓国交正常化の時に、日本は韓国に金を払ったではないか」というトーンで一斉に韓国政府の文在寅政権を批判し始めたのはなぜか、という理由を知らない人もいたので、説明しておく。

戦後におこなわれた日韓国交正常化という外交事業は、1965年6月22日に日韓請求権協定が締結されて、日本は韓国に経済協力資金を支払いながら、35年の長きにわたって朝鮮を植民地支配したことを罪と認めなかった。その間、日本は、70万人以上という朝鮮人を主に農村地帯で強制的に拉致（らち）して、炭鉱や金属鉱山での採掘、道路やトンネル建設の土建業、鉄鋼業などの重労働に駆り出しておきながら、今日現在まで、大被害に遭って人生をめちゃくちゃにされた朝鮮人労働者個人に対して、まったく賠償してこなかった。

韓国大法院判決の賠償命令は当たり前

これは国際労働機関（ILO）条約に定める強制労働や、1926年の奴隷条約に記述されている奴隷制に当たるものであり、重大な人権侵害であった。ナチス・ドイツがユダヤ人をアウシュヴィッツ強制収容所に送りこんだのと何ら変わらないことを、日本人が朝鮮人に対しておこなったのである。

膨大な数の被害者たちは高齢になって次々この世を去ったが、被害者が日本企業に賠償を求めたのは当然である。日韓基本条約を締結した当時の外相・椎名悦三郎（しいな・えつさぶろう）が1965年11月19日の国会で、「協定によって韓国に支払った金は、経済協力でありまして、韓国の経済が繁栄する気持を持って、また新しい国の出発を祝うという点において、この経済協力を認めたのでございます」と語り、賠償ではなく“独立祝い金”だったと明言した。

1965年の協定そのものが損害賠償とは無関係であることは、1991年8月27日に、外務省条約局長だった柳井俊二（やない・しゅんじ）が参議院予算委員会で日韓基本条約の請求権協定について「いわゆる個人の請求権そのものを国内法的な意味で消滅させたというものではない」と明言していた通りだから、韓国大法院判決が日本企業に賠償を命じたのは、当たり前も当たりの経過である。

ところが、日本の首相・安倍晋三と外相・河野太郎が日本企業に「賠償金を払うな」と指導してきたのだ。それはおかしいと批判すべきテレビ報道界が、あべこべに率先して韓国批判をスタートしたわけである。

このおかしい経過を見ていて私が気づいたのは、強制労働被害者に対する個人補償を定めずに日韓国交正常化の条約を結んだ韓国の大統領・朴正熙（パク・チョンヒ）が、軍事クーデターで権力を握って、ヒットラーと同じように反対勢力を全員投獄した男だったという歴史を、日本のテレビ報道界がまったく知らないのだ、ということであった。



newsdict @newsdict_005 · 2015年8月12日

ひざまずいて謝罪 韓国で鳩山元首相 - 産経ニュース

newsdict.jp/e/55cb30796970... #newsdict #news #プロパガンダ #日本人の誇り
#オリンピック #在日犯罪 #鳩山由紀夫 #西大門刑務所



wsdict @newsdict_005 · 2015 年 8 月 12 日

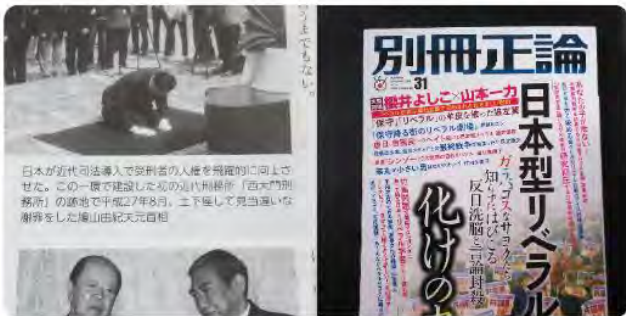
ひざまずいて謝罪 韓国で鳩山元首相 - 産経ニュース

japan · newsdict @newsdict_007 · 2015 年 8 月 12 日

韓国人独立運動家への拷問 「申し訳なく思う」＝鳩山元首相

大上主税 @Okami_Chikara · 2018年4月7日

【#別冊正論】#鳩山由紀夫 元首相は韓国に行って、なぜ土下座するのか？ 訳が分からなかったし、その理由を知りたくもなかったが、「日本が近代司法導入で受刑者の人権を飛躍的に向上させた」「初の近代刑務所 #西大門刑務所」の跡地で「見当違いな謝罪をした」とキャプションを付けられている。



大上主税 @Okami_Chikara · 2018 年 4 月 7 日

【#別冊正論】#鳩山由紀夫 元首相は韓国に行って、なぜ土下座するのか？ 訳が分からなかったし、その理由を知りたくもなかったが、「日本が近代司法導入で受刑者の人権を飛躍的に向上させた」「初の近代刑務所 #西大門刑務所」の跡地で「見当違いな謝罪をした」とキャプションを付けられている。

アウシュビッツの影 韓国

© 中央日報/中央日報日本語版 2013.09.30 14:52

1 글자 크게

そこに地獄があった。人類史上最も邪悪なホロコーストの現場、ポーランドのアウシュビッツ収容所は、生々しい地獄の記憶で満たされていた。その地獄に入る正門の前に来ると、「労働が自由にする (A r b e i t m a c h t f r e i)」という言葉が表れた。「真理があなたたちを自由にするだろう」というイエスの言葉になぞらえたナチスの嘘だ。

収容所に連れられてきたユダヤ人のうち、労働力が不足した女性と子ども・高齢者・障害者はほとんどの1週間以内に虐殺された。ナチスはユダヤ人の手に石けんまで握らせながら、風呂場に行くと偽り、地下ガス室に連れて行った。ガス室には犠牲者が息づまる苦痛の中、爪で壁面をかきまくって泣き叫んだ跡が鮮明に残っている。ガス室の上の青い草原も、そのぞっとするような記憶まで覆うことはできなかった。

ガス室から100メートルほど離れたところに、悪名高い収容所長ルドルフ・ヘスの官舎がある。ユダヤ人が毒ガスで死んでいく間、ヘスはそばの官舎で家族と一緒に食事を楽しんだのだろう。終戦後、ヘスはガス室のそばの空き地に設置された絞首台で処刑された。高圧電流が流れていた鉄条網、犠牲者の遺体を燃やした焼却場、彼らが残したカバン・履き物・メガネ・義足など…、当時の痛みを保管していないものはない。

「死の天使」と呼ばれた収容所のドイツ人医師ヨーゼフ・メンゲレは、双子のユダヤ人の腕と脚を切断してつけ替えた後、その生態反応を調べる奇怪な実験まで行ったという。犠牲者の遺体の一部はリサイクル品となった。髪の毛は枕とカーペットに、金歯は金塊に、骨粉は肥料に化けた。収容所のユダヤ人は死んだ同族の髪の毛で作った枕で寝なければならなかった。「火の中で失ったものは灰の中で探さなければならない」。透徹した歴史意識を表すポーランドの格言だ。失ったものを忘れず、灰の中で新しい希望を探すという意味だ。昨日の痛みで今日を読み、明日の道を探すという知恵だ。1979年にユネスコはアウシュビッツ収容所を世界文化遺産に指定した。とうてい文化という名前を付けることができない、その暴悪な反文化の記憶のために。

ポーランドも韓国のように絶えず外勢の侵略に苦しんだ。13世紀から数百年間、モンゴル・スウェーデン・プロイセン・ロシア・オーストリアから相次いで侵略され、20世紀にはソ連とドイツの軍靴で踏みこまれた。首都ワルシャワは5回、炎に包まれた。しかしポーランド人はその度に激しく抵抗し、自らの格言のように灰の中でワルシャワを5回再建した。

© 中央日報/中央日報日本語版 2013.09.30 14:54

ポーランドはとりわけピアノと関係が深い国だ。ポーランドの国宝的な存在である“ピアノの詩人”ショパンは1831年、ロシア軍がポーランド革命を武力で鎮圧すると、すぐに「革命のエチュード」を作曲し、傷ついた心を慰めた。著名なピアニストでポーランド共和国初代首相となったパデレフスキは、祖国がナチス軍に占領されると、すぐにロンドンに渡り、ポーランド亡命議会を率いた。20世紀最高のピアニストとされるユダヤ系ポーランド人のアルトゥール・ルービンシュタインは、ナチスに協力した指揮者カラヤンとの共演を最期まで拒否した。ピアノの旋律に宿るポーランドの抵抗精神だ。

第2次世界大戦当時、軍国主義の日本も地獄のような強制収用所を各地に置いていた。その一つが現日本副総理、麻生太郎の曾祖父が設立した麻生炭鉱だ。麻生太郎は「(改憲のために) ナチスの手法を学べばどうか」と吐いた張本人だ。麻生炭鉱に連れて行かれた韓国人労働者は一日17時間以上の重労働に苦しめられ、うち約200人が殴打や飢え・病気などで死亡した。韓国人の証言ではない。良心的な日本の史学者、竹内康人の著書に記録された事実だ。しかし日本政府はまだ侵略と虐殺の罪悪を懺悔していない。ホロコースト、アウシュビッツは70年の歳月を越えて今もなお影を落としている。

「過去を思い起こし得ないものは、過去を繰り返すように運命づけられている」。アウシュビッツ収容所第4棟の入り口でポーランド語と英語で書かれたジョージ サンタヤーナの警句を見た瞬間、この名言を日本語でも記録しておけばという考えを浮かんだ。ナチスに似たがる日本極右派の歪んだ歴史意識をアウシュビッツの地獄とともに永久に残せるように。

ところで、今でも数十万人が閉じ込められている北朝鮮の政治犯収容所と教化所はどうするのか。他人でもなく同族に拷問、強制堕胎、公開処刑を日常的に犯すという今日の生き地獄、私たちのそばに差しているあの野蛮の影は。

イ・ウグン法務法人チュンジョン代表

アウシュビッツ・中央日報・韓国の最新ニュースを日本語で ...

japanese.joins.com/search/japanese.php?... アウシュビッツ・キャッシュ

によると、『徴用工は日本の不法な植民地支配時代の戦時中に朝鮮半島から強制連行されて奴隷のように扱われた朝鮮人労働者』、『軍艦島は徴用工が働かされたアウシュビッツのような地獄島』そんな捏造の歴史が世界に広まっています。反論せずに黙っ ...

アウシュビッツ紀行

吉田徳夫（法学部教授）

今春、小川悟先生を団長とする一週間ほどの私的なドイツ・ポーランド旅行の企画があった。案内役を買っていただいた本学の講師シュピーゲル先生以下、私と、人権問題研究室員の梁永厚先生が同行し、総勢7人の旅行団である。行く先はポーランドのアウシュビッツ収容所とドイツのダッハウ収容所である。

近年、ユダヤ人問題に関して、ユダヤ人を虐殺したガス室はなかったとか、収容所でのユダヤ人の死因はチフス等の感染症であるなどと主張する文献が日本でも刊行され、注目を浴びたことがある。日本と同様にいわゆる歴史の見直し論が盛んな中で、ナチズムを肯定する思想がヨーロッパ各地でも主張され、我々が訪欧した直前にもオーストリアではナチズムに肯定的な政党が政権の一角に収まるという問題が生じたり、チェコのある自治体ではシンテイ・ロマに対して、治安維持の関心に立った隔離施策が行われ、E. U. が弾劾を加える等の新聞報道があった。

歴史の見直し論が欧州だけの問題ではなく、日本にもこの問題がある。ユダヤ人問題に相当する日本での問題は、南京事件を代表とする日本軍による大量虐殺事件があげられるが、国内問題やナショナリズムの観点からすれば、在日外国人問題や部落問題がそれに相当すると思う。最近では東京都知事が外国人労働者を標的とする治安関心を示し、いかにも差別的な「三国人」発言をおこなった事は注目され

る。

アウシュビッツ収容所の建築群

アウシュビッツを訪れる前に、旧ワルシャワ城内にあるワルシャワ歴史博物館を訪れた。1939年にナチスがポーランド侵攻を始めた頃の写真が数多く展示されていた。その中でも、ナチスがユダヤ人を白昼街頭で捕らえ、生き埋めにし、また虐殺されたユダヤ人の側をポーランド婦人が見知らぬ顔で通り過

監視塔からみるビルケナウ収容所

ぎている光景が写された残虐な写真が目についた。次にアウシュビッツを訪れた。アウシュビッツはユダヤ人にとってはホロコーストの象徴的な施設である。訪れた時にも、ナチスによる虐殺への抗議の意思表示であろう、ユダヤ人と思われる一団がイスラエル国旗を背中に纏い集団で見学に来ていた。

アウシュビッツを訪れて改めて驚かされたのは、アウシュビッツ以外の収容所も同様であるが、収容所に隔離されたのはユダヤ人だけではなく、ポーランドの政治犯、教会関係者が収容され、収容所内部でもユダヤ人とは別に隔離され、各々別に死刑の執行装置も設置されていた。そこには今も花束が供えられていた。

ビルケナウス収容所の引込線とプラットホーム

隣に設置されたビルケナウ収容所には今もなおナチスによって破壊されたガス室が残っていた。現地に居住されポーランド文学を研究されている中谷氏の説明に依れば、ビルケナウ収容所に連れてこられたユダヤ人達は、周辺を花園で飾られたプラットホームに降り降りると、その場所で労働に耐えるか否かを検査し、労働に耐え得ないユダヤ人を直ちにプラットホームの横に設けられたガス室に送ったという。労働に耐え得るとは言っても、収容所に飾られたユダヤ人の遺影を見ていると、収容所に来てから約2、3ヶ月でなくなっている。中には人体実験に供された子供の遺影もあった。

アウシュビッツから車で2時間の所にクラコフという町があり、我々はそこを宿泊の地とした。同都市はポーランドの中世都市であり、戦争で破壊された様子はなく、落ち着いたたたずまいを残している。都市の広場には大きな教会が建っており、若い女性がひざまづいて礼拝をする等、日本の寺院と違って多くの人々の敬虔な信仰を集めている様子が窺えた。その街の一郭にはユダヤ人街、ゲットーの壁の一部が残っているが、民主化以後、亡命していたユダヤ人がクラコフに戻りつつあるという。近年映画化された『シンドラーのリスト』でクラコフは著名になり、その撮影現場も訪れることが出来た。旧ユダヤ人街の中に、今日もユダヤ人のレストランが開業しており、同所でロシア系ユダヤ人であろう、彼らの奏する元気なユダヤ音楽も楽しむことが出来た。

クラコフに残るユダヤ人街、ゲットーの壁

クラコフからミュンヘンへ移動して、アイヒマンが勤務した所でもあるダッハウ収容所へ出かけた。同収容所は、今日のドイツでは反ナチズムの教育機関として大事な役割を果たし、多くのドイツ人が訪れている。小川先生の話に依れば、同収容所はユダヤ人を選別して各地の収容所に送る重要な機能を持っていたと言い、同先生が30余年前に訪れたときと比較して、収容所の建築群も非常に綺麗

アウシュビッツ収容所 ユダヤ人の抗議の意思を込めた見学集団

アウシュビッツ収容所

ユダヤ人の抗議の意思を込めた見学集団

に整備されているという。中でも同収容所にあったはずのガス室が今日撤去されていると指摘された。その指摘は大事である。アウシュビッツが現状保存に努めていることと比較して、ダッハウは改変の跡が顕著である。それはアウシュビッツが国立博物館として保存されている事と対比すれば、ダッハウが教育機関になってしまっている所に両施設の相違が生まれる原因であろう。

E. U. 統合を目前に、昨今のドイツは大きな変貌を遂げつつある。日本と同様に、第二次世界大戦以後、奇跡的な経済復興を成し遂げたドイツは多くの外国人労働者を受け入れ、トルコ人を含めて、彼等にドイツ国籍を与える国籍法の改正を行った。国簿の出生地主義から生地主義へ変更するというものである。ドイツ人は従来フォルクという言葉を好んだが、今後はこうした言葉も死語となる可能性があり、ドイツ・レジデント、ドイツ住民の用語が用いられることになろう。反ナチズムの政府の取組は世論は大きく揺らしたと聞かすが、それはドイツ民族主義への反省を伴ったものであると思量される。日本も、こうした民族主義的見解が一部の政治勢力だけの問題ではなく、日本政府自身にも存在することは明らかである。その事は或いは教育基本法の見直し論の法制化や君が代・日の丸、日本に於ける外国人処遇問題に端的に現れている。外国人であれ、国民であれ、政府の施策が自由主義ではないイデオロギーや治安維持に偏って行われるとすれば、日本の人権状況は危ういものとなる。

まとめ

何処の国でも歴史的に大切なものがある。その中の重要部分が「世界遺産」である。国連の機関であるユネスコは、各国政府に働きかけて推薦リストを作成してもらい、その中から慎重な審査をして決定をしてゆく。したがって、その国（国民）の考える大切なものは網羅されているはずである。今回訪れた大韓民国のそれは以下である。

＊（社）日本ユネスコ協会連盟公式サイトより転載

大韓民国

- ・ 八萬大蔵經の納められたカヤサンヘインサ | ●
- ・ 宗廟（チョンミョ） | ●
- ・ 昌徳宮（チャンドグン） | ●
- ・ 水原（スーウォン）の華城 |
- ・ 石窟庵（ソククラム）と仏国寺（ブルグクサ） | ●
- ・ 高敞（コチャン）、和順（ファスン）、江華（クアンファ）の巨石墓跡 |

・ 慶州（キョンジュ）歴史地域 |

それらは、日本からもツアーを組んで観光客が訪れる場所である。しかし、今回筆者が訪れた場所はひとつもない。それではさほど韓国民には重要ではない場所のだろうか？答えは勿論、「否」である。西大門刑務所歴史館は、筆者が通った二日間に、多くの保育園児から高校生までが、教師に連れられ「歴史学習」に来ていた。熱心にメモする中学生も多くいた。

ある韓国人の日本語ガイドはこう言った。「いま、わたしたちの国があるのは、こういう人たちのおかげです。国がなくなる—ということがどんなことか、よく分かります。平和のありがたさも分かります。こういうことは、次の世代にも伝えることなのです。」と。

「負の世界遺産」として有名な「アウシュヴィッツ強制収容所」は、確かに「ユネスコ世界遺産」だし、広島原爆ドームも同様である。しかし、この西大門刑務所は登録されていないし、中国人が埋められた中国の「万人坑」も、ピカソの絵画で有名なスペインのあの「ゲルニカ」の町もまったく登録されていないのである。またこの時点で、ユネスコ日本サイトHPには、アフガニスタン（仏教とシルクロード関係）は登場していない。*どんなに歴史的に価値があっても、内戦状態だった国では、まずは「生きる」ことが優先されるのであろう。

*私は個人的には、「タリバン」に破壊された「バーミヤンの石窟・石仏」をぜひ世界遺産にしてほしいと思う。そこは、破壊され石片しか残っていないが、シルクロード史、仏教史からいうと大変な価値があるからである。ポーランド・ワルシャワの「旧歴史地区」も、ナチスの空爆で建物すべてが破片になり、長年の苦勞の末に再建して世界遺産指定を受けた例がある。

そこには、他国への政治的配慮やその国独自の事情やその政府の考え方があるであろう。しかし「戦争は人類の最大の罪悪」ということを考えると、どんな「負の遺産」でも登録し、世界に知らせること、そして語り継ぐことが肝要なのである。

さて、前置きが長くなったが、今回筆者が訪れた「刑務所、記念館、公園」はすべて、朝鮮半島が日本に支配されていた時の「遺物、形見」である。韓・朝鮮民族にとっては、「消し去ってしまいたい場所」かも知れない。しかしながら、ガイドの方が言っていたように、彼らの血と涙の貢献がなかったら、現在の大韓民国の発展はなかったように思われるし、彼らの強い「アイデンティティー」はなかったかも知れない。*

*日本人は、韓国・朝鮮人たちがスポーツ競技で、「対日本」になると必死になって戦い、勝とうとする姿をずっと見てきた。「日本にだけは負けたくない！」そう見えた。これも歴史の「不幸な出来事」から由来しているだろうことは、想像に難くない。

金大中政権になるまでの韓国民の「反日感情」は大変なものだった。雑誌や新聞などの日本語も表面的には禁止されていたし、かなり前のアンケートだが、大嫌いな国の2位が日本だった。（1位は当時のソ連、大好き1位はアメリカ）それは「自分の身内が日本人に非道い目に遭わされた、殺された」という理屈抜きの感情によるものであったであろう。

しかし最近の日韓関係は比較的良好で、昨年のサッカー世界大会共催では、「友情の輪」も広がった。日本の観光客も韓国の観光客も互いに訪問し合う感じになっている。ほとんどの日本人は、ミョンドンでブランドを買い、ウオーカーヒルでギャンブルをし、美味しい韓国料理を食べ歩いている。また韓国人タレントが日本のTVに出たり、韓国語が話せる日本のタレントが韓国で「活躍」している。大変結構な交流ではある。

しかしながら、「歴史の事実」は永遠に消えてなくなることはない。人は「与えた傷み」は忘れるが、「受けた傷み」は決して忘れることはない。先述の「韓国語が話せる日本人タレント」が、韓国人の中で流暢な？韓国語を話していた。内容はよくは覚えてはいないが、ある中年韓国男性がこう言った。「あなたはそう言うが、**韓国の歴史を知って言っているのか？**」タレント「知りません・・・」。彼は何も言えなかった。そのあと、場が急に盛り下がってしまった。ほとんどの参加者は韓国の若者だったが、彼らもこれに同調し肯いていた。だれもそのタレントのバックアップはしなかった。しかし、今の日本の若者はそういうものなのだ。学校の社会科でも、ちゃんと習ってはいない。

戦争時まで兵隊だった日本人は「過去を忘れようとする」し、戦後育った若者は何も歴史を知らず「無邪気に仲良くしよう」とする。こういうのは、やはり両者ともすこし違う気がしてならない。**歴史をよく知った上で、よく反省をしてから、お互いに交流をすべきであろう。**

筆者が件の刑務所に行った時、案内のシンピルソン女史が「この慰霊碑の前で小泉首相は参拝しました。ここでは予定の時間を大幅に超過しました・・・」と説明した。彼女の言葉のニュアンスに、好意が含まれていた。何十年も前に「日本人によって殺された人々の慰霊碑」の前で、「加害者である日本人の代表である首相」がお参りするのだ。しかも予定時間を超過して・・・。死んだ者はもう還らないし、歴史もプレーバックはできないが、韓国人には若干よい印象を与えたに違いない。これらのことの積み重ねから、「近くて遠い国」が本当に「近くて近い国」になってゆくことであろう。

「秀吉侵略軍」に勝利した「救国の英雄」

李舜臣（イ・スンシン）将軍像

（鍾路区・世宗路）

終わりに

行き帰り含んで4日間—という短期間に回ったソウルの町ではあった。また一般的な「観光地」も行かず、買い物もせず、グルメもせず滞在した町ではあったが、ほぼ満足している。この春のポーランド・アウシュヴィッツ収容所から帰ってから、次はこの韓国に来たいと思っていたのだ。案の定、ある意味ではアウシュヴィッツより「インパクト」は強かった。それは死者数の多寡とかではない。先祖同胞が「隣国人」に犯した「罪、過ち」の痕跡を見て、体の中を流れる日本人という血が、「異常な反応」をしたからである。

私が二十年近く前に、三年間滞在したアフリカのアルジェリアは大変遠い国で、日本との確執や因縁

は何もなかった。また当時「バブル」で大発展の日本がテレビで紹介されたこと、また当時のシャドリという大統領が、「工業化を日本に学べ」と演説していた。これらのことから日本の評判はよく、また子どもは「カラテ」とか言って話しかけてきた。

こういう国だったが、たったひとつ古いエピソードがあった。日本が朝鮮半島を植民地にした頃、当時フランスの植民地であったアルジェリアを、日本人が見学に来ていた。日本は開国してまだ日が浅く、「植民地経営」のなんたるかもわかっていなかった。そこで、「帝国主義の大先輩」で世界中に植民地を持っているフランスに「範を垂れて」いただいたのだ。その結果、「日帝」の冷酷なまでの「朝鮮経営」になってしまったのだ。実際、フランスの「アルジェ支配」もかなり「えげつないもの」だったという。独立までに多くの婦女子を含む非戦闘員が死亡した。警察力で人民を強圧的に支配する—というのも、「警察国家・フランス仕込み」かも知れない。

さて話は変わるが、よく「日本が朝鮮半島を植民地にしなかったら、半島は二分されなかった」といわれる。日本が負けて半島から撤退した後、朝鮮戦争が起こったが、これも人々に物質的、人的、精神的な大きな傷跡を残してしまったし、「北」を恨む韓国人が増えたのも事実である。何人かの老人と話をしたが、彼らは異口同音に「北に親・兄弟・戚親がいる。行方は知れない。「北」は教えてもくれない」と、半ば諦めた様な口調で言うのだ。そしておしなべて、「北は信用できない」と言った。

滞在したホテルのエレベーターの中で、一人の「在日」韓国人中年女性と出会った。彼女は今は北海道の温泉ホテルの専務、ご主人が社長だと言った。降りてから立ち話をした。私が岡山だと知って、「むかし姫路にいた」と言った。しかし姫路では食べていけないし、差別も非道だったので、北海道へ渡り、札幌で裸一貫「焼き肉・飲み屋」から始めたという。そして苦労の末、現在は温泉ホテルを経営しているという。

私は「里帰りですか？」と訊いた。おそらく遠縁・親戚を訪ねたり、墓参りだろうと思ったのだ。答えが意外であった。「わたしたちに帰るところはありません。私は日本で生まれた二世ですから・・・」それでも、体に流れる血がこの地に来させるのだろうか。彼女は名刺を呉れた。韓国名だった。「国籍は韓国ですか？」と訊くと、「パスポートも韓国です」という。「男の子ども二人ともソウルに留学させました」私「三世でも韓国語は上手なんですか？」「いいえ、こちらに来て一年足らず、会話学校に通いました。」私「でも韓国籍だから、こちらでは差別はないでしょう？」またまた答えが意外だった。「子どもたちは苦労したようです。＜在日＞と言われていじめられたそうです。」

そういえば、日本のテレビのニュースで、一かなり前、「北朝鮮帰還事業」が始まり、勇んで「帰国」した「在日」達が、祖国で「在日」といわれ差別にあった-と報じていた。あれは「北」だけでなく、「南」で現在も現実にあることなのだった。歴史的に言えば、「在日」達は「好きこのんで日本に来たのではない」のに、なぜ祖国で差別されなければならないのか！？それとも「差別」は、世界中のすべての人間が持つ「もっとも普遍的なもっとも卑しい心根」なのか？、または「人間の悲しい性」なのか？中国の「華僑（華人）」も本国帰国時には差別されているのだろうか？

話しは戻るが、彼女に「日本国籍を取ることはありませんか？」と訊いてみた。彼女はきっぱり「ありません！取りません！」と声を大きくして答えた。「むかし思ったこともあるけど、このままの方が良いです」「私の友人が、日本国籍を取ったら（帰化）、役所の書類に「新日本人」というような書かれ方をしました。この「新」がとれるのは、三代してからなんです。これで私は考えを変えました。」

いったん「日本人」になったら、「新」も「旧」もあるものだろうか！？明治期に「四民平等」といわれ、江戸時代まで差別されてきた「部落民」が「平民」になった。しかし書類では、「新平民」とかかれ、「シンヘイ」と呼ばれ、差別が続いた。これでは日本は「民主主義国家」ではなく、「封建国家」だ。ヨーロッパでも幾分は差別が残る*ものの、移民は条件を満たせば、比較的「市民権」が取れている。フランスのサッカーのヒーロー、ジダンも「アルジェリア移民の子」だ。

*「差別」は世界のほとんどの国・地域で見られる。日本でも既述の「在日」の人々に対しての他、旧「部落」出身者、「アイヌ人」、アジア系などに対して、現在でも存在する。世界では、ユダヤ人に対してのものが有名だが、アメリカでは「WTCビル爆破テロ」以来、アラブ系の人たちにも差別が行われてきている。ヨーロッパでも、イスラム系出稼者や少数民族、アフリカ系に対して、歴然と差別がある。

我が国封建時代の（武家）女性はよく、「三界に家なし」といわれ、大変つらい立場にあった。「在日」達は、戦後60年近くなっても差別を受け続けているのだ。まさに「戦前、戦後日本、母国」の三界に家がない感じである。日本が20世紀に入ってからやって来たことの「後遺症」が、未だに残っているといえる。「在日」にはまだ「戦後」が終わっていないのである。

（おわり）

特 記

豊臣秀吉の朝鮮侵略ならびに

明治期以降「日帝」・日本帝国主義によって

被害を受けられた朝鮮半島の方々、また戦時中「日本軍人・軍属」として

戦死された方々、日本軍に「従軍慰安婦」として連行され亡くなられた方々、

および日本国内で関東大震災時に日本人に虐殺された方々、日本の鉱山工場等で

暴行死、過労死された韓国・朝鮮、「在日」の方々のご冥福をお祈りします

カムサハムニダ、心よりお礼申し上げます

上写真はアンネ・フランク

読者のみなさんのご感想・ご意見を紹介します

このサイトの「**アウシュヴィッツ強制収容所**」を読んでいただいた方々から

たくさんの感想のメールを頂きましたので、ご紹介します ありがとうございます

皆様のご感想、ご意見をお待ちしています メールアドレスはこのページ下にあります

Renewed: Jan. 03, 2008

壁紙はワルシャワ・ゲットー跡地にある慰霊碑のレリーフ（筆者写・(C)2003）

「もし自分があの場所にいたら」（投稿 TH 君 高三）
「なぜ同じ人間を笑いながら殺せるのだろうか？」（投稿 KN さん 兵庫県 中学生）
「恥ずかしい過去だけど隠さず公に公開しているドイツ」（投稿 NK 様 ドイツ留学中 大学生）
「悪魔の仕業か？」（投稿 SK 君 学生？）
「歴史に立ち向かうドイツと、真剣に取り組む姿勢のない、
日本との違いは？」（投稿 YO 様 会社員）
「写真が鮮明で具合が悪くなりました」（投稿 F さん 大学4年）
「もう言葉もない・・・」（投稿 SN 君 中三）
『『白い巨塔』とアウシュヴィッツ』（投稿 MT 様）
「リンクをはらせて頂きました」（投稿 TM 様 ドイツ留学中 大学生）
「やはり許せない！」（投稿 Y 様）
「分からない！」（投稿 Y 様）
「許せない！」（投稿 Y 様）
「大変に参考になりました・・・」（投稿 HT 君 高三）
「ショックです」（投稿 KK 君 中二）
「衝撃を受けました」（投稿 HK さん 会社員）
「よい資料ありませんか」（投稿 SK 君 中三）
「ドイツ兵に射殺される母と幼児の写真に衝撃」（投稿 NM さん 主婦）
「教えてください」（投稿 MK 君 高一）
「アウシュヴィッツへ行きました」（投稿 M さん 大学生）
「アウシュヴィッツ」（投稿 兵庫県 AT さん 大学生）
「アウシュヴィッツ収容所」（投稿 M さん 生徒）
「アウシュヴィッツの写真を見て」（投稿 フランス・パリ在住 HY さん OL）
「アウシュヴィッツ収容所の感想」（投稿 茨城県 HI さん 大学院生）
『『アウシュヴィッツ強制収容所』との相互リンクについて』（HP「或る中尉の手記」の webmaster、SA さん）
「当社サイト内記事へのリンクについて」（旅行会社 Horizon Travel Inc）

もし自分があの場所にいたら

私は戦争の歴史や人物について興味がありましたので、このホームページを見させていただきました。自分は歴史が好きなので戦争についての研究をしています。しかし、研究といっても実際には理論的なことを資料集や教科書から用いて書き出し、戦争の是非や歴史の変化を語るだけで「情」というものに触れてきませんでした。

しかし、今回このホームページを見て、戦争の真の辛さが心に深く刻みこまれたと思いました。もし、自分がガス室に運ばれることになったり、銃殺される身になったりしたらと考えると怖くて想像すらできません。そして、何より辛いことは自分が恐怖にさらされることなく、家族や仲間の死を目の当たりにするということです。もし、父が目の前で銃殺されたら、もし、母の変わり果てた姿を見たら… も

う、生きていることすら辛く耐えられないでしょう。

私は、現実に関わったことを目の当たりにしてようやく戦争の悲惨さを知りました。あのとき亡くなった尊い方々の思いを感じるによって私はある意味成長したと思います。家族との時間、仲間の存在、何気ない日常の平和に感謝してこれからは生きていこうと思います。そして、今なお続く世界の紛争や戦争が少しでも早くなくなり、「普通の日常」を送れる日がやってくることを心から願います。

(投稿 2007/12/20 高三 TH 君)

なぜ同じ人間を笑いながら殺せるのだろうか？

なぜユダヤ人は自分たちがされたことを他にできるのだろうか？

初めまして、こんにちは。私は兵庫県に住む中学3年生の KN と言います。私はつい先日、アンネ・フランクさんの「アンネの日記」を学校の図書室で借りました。始めは友達の話や、学校の男の子の話など読んでいて実に楽しいものでした。

しかし、だんだんそれが一変してアンネや家族のみなさんユダヤの人々が恐怖に虐げられていく様子が鮮明に記されていて、このままこの事件について（何も知らないままではいけない）と思い、「アウシュビッツ収容所」を検索し、このホームページに訪問させて頂きました。

沢山の目を覆いたくなる様な残虐な写真の中で、私が一番目を奪われたのは、ユダヤの人を笑いながらオノなどで殺している写真でした。自分と同じ、生きている人間を何故殺せるのか。何故笑っていられるのか。

ベッドやトイレ、囚人服やガス室。髪の毛、めがね、義手・義足・・・死を目前にしている人々。全てがリアルで、（これが本当に起こったことなのか）と考えると、胸が苦しくなりました。自分がもし同じ様な立場に置かれた場合、私やったらどうしたんやろう。どう思ったんやろう。必死で考えました。

ユダヤ人と言うだけでここまで残虐なことをされて、人々の死をただ黙って見つめ、（次は自分の番かもしれない）そんな恐怖に打ち震えながら1日、また1日をすごしていく。夜が明けても、朝がきてても、この状況からは解放されない。生きてる心地さえしないんだろうなと思いました。

今回このホームページを訪問させていただいたことで、沢山の事を学ばせていただきました。命あるのが当たり前だと思ってた自分を、よく見つめ直したいと思います。本当にありがとうございました。

(投稿一回目 2007/10/28 兵庫県 中学生 NK さん)

・・・・・・ご丁寧にお返事を下さりありがとうございます。つい先ほどですが、「アンネの家訪問」のページを見させて頂いたのですが、(ユダヤの人々がされた事と同じ様な事をやっている。)と言うのには衝撃を受けました。自分達がやられて、どれ程の犠牲が出たとしてもそれと同じ様な事をやっていくと言うのは間違ってると思うし、自分達がやられた事だからこそやられる苦しみや悲しみが分かるはずだから、反対していくべきだと思いました。やっぱり全ての人間が(同じ事を繰り返してはいけない)と考える事は難しいと思うし、その人その人に意思があり、自分達がもらった辛さをその様な形で味合わすことを望む人も少なからず居ると思います。だからと言って、それが許される行為ではないと思うし、したとて何も得られないのが実情だと思いました。・・・・・・

(投稿二回目 2007/11/01 兵庫県 中学生 NK さん)

恥ずかしい過去だけど隠さず公に公開しているドイツ・・・

こんにちは。NK といいます。大学3年生で交換留学でドイツの大学にて勉強しています。大学が春休みということで明日からポーランドへ行ってきます。この旅の最大の目的はアウシュビッツ。少しでも勉強していこうとインターネットで調べていくうちにこのサイトへたどり着きました。目を覆いたくなる写真や事実に胸が痛くなったとともに、すごく勉強になりました。

小学校3年生の頃に母とオランダに行き、アンネの家を訪れたことがあります。そのとき、初めてアンネという少女とともに悲惨な過去の事実を知りました。アンネの家にも死体の山の写真などとても残酷なものが展示されてました。私と同じくらいの娘を連れたドイツ人の親子と一緒にでした。

そのお母さんは写真を指さしながら一生懸命、女の子に教えていました。すごく印象的でした。私の母もその光景を見て、私に世界大戦のこと、大量虐殺のこと分かりやすく教えてくれました。

帰国後、「アンネの日記」を読みました。同じくらいの年の女の子で、同じようなことを考えて生きている女の子。何よりも私達は同じヒトです。なのに、その女の子に強いられる人生は・・・本当に悲しくなり、同じ人間が行った行為だと信じられませんでした。同じ時期、アンネの親友だったリースという方の講演が近くの教会でありました。その講演を聞きにきてた最年少の子だということもあり。最後に彼女は私の手のひらにキスをしてくれました。そのときアンネのぬくもりも同時に感じたようで何ともいえない気持ちになりました。

現在、旧東ドイツにいます。素敵なものもたくさんあります。一方で強制収容所、ベルリンの壁など負の面もたくさん残っています。すごく大切なことを学べるきっかけがたくさんあります。旧東ドイツの面影もまだ消えていません。ネオナチの存在も確かです。私のドイツ人の友人とヒトラーの話になったことがあります。何でも教えてくれ、何でも語ってくれる彼ですが、そのときばかりは表情が固く。“わかっているのは、彼から学ぶことは一つもないということだけ” そうきっぱり言いました。それだけドイツにとっては恥ずかしい過去なのでしょう。

恥ずかしい過去だけど隠さず公に公開しているドイツ。日本とよく対比されますが、何が正しいかなんて分かりません。でも残っている以上、そこから私達は学ぶものがあると思います。少なくとも、この歴史はドイツだとか関係なしに同じ人間が起こしたもののだから。

長くなりましたが、とりあえず、アウシュビッツへ行ってきます。この目でしっかりと見てきたいと思います。

(投稿 2006/3/26 大学生<ドイツ留学中>NK さん)

「悪魔の仕業か？」

中三、SNの兄弟のSKと言う者です。私は、現在資料等を利用し、アウシュヴィッツについて学んでいます。私はこのページ及び他の資料を見て、言葉にできない何かを感じました。というのも、このアドルフ・ヒトラーという男は、とても賢く、彼の著書、『わが闘争』では議会主義的民主主義に対する矛盾点等を鋭くついています。無論、事実を歪曲し、偽りに塗り固められているのも確かです。しかし、正しい事も述べています。

彼は狂人だったのか？悪魔だったのか？『悪魔の所業』『悪魔のなせる業』と言う人もいます。それも正しいと思いますが、これらのホロコーストは『人間だからこそなせる業』だと思います。これを行ったのは人間なのです。私達と同じ人間。怪獣でもなければ、悪魔でもなく、ホラー映画の悪霊でもない・・・

笑いながらユダヤ人の死体を弄び、命をクズのように扱う彼等を前にすれば、どんなに恐ろしい悪魔でも悪霊でも震え上がると思います。

私は二枚の写真を目にした事があります。一枚は、連合国軍の調査官がボロボロになり、原型とどめていない子供の死体を抱き上げている写真です。その調査官の何ともいえない表情がとても印象に残りました。もう一枚はゲッソーで撮られた写真です。不自然にやせ細り、死んでいる赤ん坊の死体をあのハインリヒ・ヒムラーへの報告の為に、表情一つ変えないで頭をわしづかみにしている男の写真です。その男やホロコーストの実行犯はこの世に存在する全ての作り物の恐怖を遥かに超えた恐怖を私に与えました。戦後、解放された強制収容所を目にしたドイツ人は『知らなかった』『まさかこれほどとは』という言葉の口にしたそうです。自分達は散々ユダヤ人を冒瀆し、暴力をふるったのを『知らなかった』で済まされる筈がありません。ホロコーストはナチスという名の人間の組織のみの責任ではなく、ドイツという国そのものに責任があると感じます。

現在、この世界には紛争が蔓延しています。その中でも、かなり長い間続いているパレスチナ・イスラエルの紛争があります。パレスチナはユダヤ人の作った祖国で、イスラエルはアラブ人の祖国です。果てしない殺戮と暴力の嵐、彼等は戦っています。ユダヤ人はやっとの思いで手に入れた祖国を護る為、アラブ人は祖国を侵略者から護る為・・・この不毛の戦いに一体、何の価値があるのでしょうか？ナチスの人々は何かを得たのでしょうか？答えは・・・いつか見つかるのでしょうか。答えは・・・あるのでしょうか。

(投稿 2005/7/15 学生？ SK 君)

「歴史に立ち向かうドイツと、真剣に取り組む姿勢のない、日本との違いは？」

ナチスおよびその思想によるユダヤ人を始めとする虐殺について、中高生にも分るように書かれ、これは是非とも若い人たちに読んでもらいたい、そしてこの問題を考えてもらいたいと思います。ドイツといえば、音楽、文学、芸術、科学で大変優れた人々を輩出してきました。その文化を持ったドイツがなぜあのようなことをしたのか。文化に優れていても、それは人間の表面に留まるもので、何の歯止めにもならないのか。また、この問題は決してドイツだけの事ではない、と現代にも警鐘を鳴らす構成になっているのもよいと思います。

ただ、アウシュヴィッツに代表される強制収容所をつくったのも、根っからの大悪人だったりしたわけでない。むしろ普通の人間であったわけです。映画『ヒトラー最後の12日間』でも、この独裁者を人間的に描いているといいます。またエルサレムでのアイヒマン裁判を傍聴した、ハンナ・アーレントがアイヒマンを見て、平時であったならば、せいぜい平凡な下級官吏、サラリーマンにしか見えないので「悪の陳腐さ」と喝破しました。この平凡な人間が何百万もの人間を「命令を実行しただけ」として死の収容所に送り込んでしまう。平然と大量殺人を犯しました。

これが根っからの大悪人であったら、ことの深刻さはそれほどでもない、むしろ平凡な人間が平然となしてしまったことにこそ、またナチス国家の高官となった人たちの多くが教育程度も非常に高く、博士号を所持し、芸術を解したものも少なくない、その知識をフルに使って虐殺を行い、医学でも若いメンゲレどころか、ドイツの、いや世界一流といわれる学者が医学実験、生体実験などを利用し、戦後も高い地位を占めていたものもいるということに慄然とせざるをえないこと、そこにこそ恐ろしさ、恐怖、ホラー映画など足元にも及ばぬ現代の恐怖があるということをもっと強く出していただいても良かったと思

ます。しかし、『ヒトラー最後の12日間』だけでなく、ドイツではナチス政府のなかでただ一人の善と
思われていたのとは違うという軍需相シュペーアの実象を描いた TV 映画をながしているそうです、こ
のような歴史に立ち向かうドイツと、依然として真剣に取り組む姿勢のない、日本との違いはどこから
生まれてくるのでしょうか。これを考えると悲しくなります。

「写真が鮮明で具合が悪くなりました」

はじめまして。NK 大学4年の F です。HP 拝見させていただきました。大変鮮明な写真がたくさん
あり、具合が悪くなるほど見入ってしまいました。・・・・(略)・・・・

お願いがあります。私は大学で平和学のゼミナールに所属しており、今年2月末にゼミ合宿でトレブリ
ンカ、アウシュビッツ、ビルケナウ、ザクセンハウゼンの四つの収容所を見学してきました。そして今月
28日に地元で報告会を行います。そこで、来場者の方に理解を深めていただくために、パワーポイント
を作成し、写真を載せたいと思っております。

なにか表現はないかとHPを検索していたところ、こちらにたどり着きました。そこで、「ゴミのよう
に積まれたやせこけた死体」「ドイツ兵が笑いながら寄ってたかって棒でたたき、オノで殺す」「公開処刑
死体の前の右端女性の表情が印象的である～」の写真が大変興味深く思いました。他にも、私たちよりよ
く撮れている写真やこちらに無い理解しやすい写真がありましたら、報告会の際、引用させていただき
たいのですが、ご検討していただけますでしょうか？・・・・(略)・・・・

(投稿 2005/5/18 大学4年 Fさん)

「もう言葉もない・・・・」

初めて投稿します、SNといいます。中学三年になります。私はこの悲劇はアドルフ・ヒトラーやヘルマ
ン・ゲーリング、ルドルフ・ヘス等ナチス高官達の責任だけでは絶対には言い切ります。今までにも
こういった写真を本やインターネットで見た事がありますが何度見てもやはりこんな事を絶対に繰り返
してはいけないというのが一番わきあがってくる気持ちです。

何故こんな事を平気で出来たのかナチスの人々の神経を疑わざるを得ません。こんな意味もない大量虐
殺をしても正気でいられたのはもう常軌を逸しているの一言で済ます事は出来ないと思います。小学校
から教えられているはず、自分がやられて嫌な事は人にはしない、これはルールのはず。なのに人種が違
う。ただそれだけで罪のない何千人もの人を殺す・・・・もう考えるだけでナチスの思想を否定せずには
いられなくなります。

そしてこのヒトラーの暴虐を支持した無責任なナチスの人々やドイツ国民・・・彼らにもう一度聞きたい
です。正しい事は何か。そして自分のやっていた事は何かを・・・・・・。そして彼等ナチスに嫌でも
従った人々、逆らい死んでいった人々、なによりユダヤ人の人々に心からご冥福を祈るばかりです

(投稿 2005/3/27 中三 SN君)

旧日本軍がアジア諸国に行った暴虐についても許せない

何度も返信ありがとうございます。確認させて頂きました。私の感想を載せてくださってありがとうご

ざいます。他のものも読ませて頂きました。やはり旧日本軍がアジア諸国に行った暴虐についても許せない気持ちがあります。以前に日本軍の侵略についての本を読んだのですが中国人を斬首しその首を持って誇らしげにしている写真がとてもショックでした。感想の中にもありましたがやはり日本が行ってきた暴虐の事ももっと公にすべきだと思います。他にも様々な惨たらしい写真に正直、目を覆いたくなってしまう。こんな惨劇を行った事を忘れてはいけないと思います。

『遠ざかる映像の前で 希望が回復したふりをする

ある国のある時期の話と言ひ聞かせ 絶え間ない悲鳴に 耳を貸さぬ我々がいる』

これはご存知かもしれませんがアウシュビッツ強制収容所で実際に撮影されてホロコーストとユダヤ人の迫害を生々しく描いた映画『夜と霧』のラストに出てくる字幕だそうです。(文はあるページより引用) ヒトラーや日本軍の台頭を許していた国民や他の様々な政治家達や他国の無関心さも大きな原因だと思います。長文すみませんでした。もう本当にこんな事は何処の国にもしてほしくないしされてほしくありません。平和な世界がおとずれる事を心から祈っています。

(投稿 2005/3/28 中三 SN 君)

「白い巨塔」とアウシュヴィッツ」

はじめまして。僕がこの残酷な事件を初めて知ったのは、ドラマ「白い巨塔」を見てからです。それをきっかけにアウシュビッツの事をもっと知りたいと思い、興味を持ちました。そしてこの HP を見てみると、ヒトラーを首謀とするユダヤ人の迫害についてよく分かり、とても衝撃を受けました。

人種が違うからといって、ユダヤ人を殺害するヒトラーは歴史上、最も冷酷無比な人物ではないかと心底から思いました。ヒトラーの配下のナチス軍も彼に洗脳されたといっても過言ではないかと思ひます。それをしらしめる写真が、ユダヤ人が絞首刑されている傍らでニヤニヤ笑っているナチスの軍人です。しかし犬や家族はとても大事にするというではありませんか！！それなのにユダヤ人ならこうも簡単に殺してしまう神経が全く理解できず、とても腹立たしい気持ちになりました。このような事件が起こる前に、どうにか防げなかったものか、誰かが名乗り出てチームを作りヒトラーの独裁政治を反対すれば、ユダヤ人は殺害されずにすんだのではないかと・・・と思うと歯痒くて仕方ありません。

しかし、いま後悔したところでユダヤ人の命が戻ってくる訳ではありません・・・これからの私たちがやるべき事は戦争を心から憎み、このような大量殺人があったと言うことを、しかと受け止める事が大切ではないのかなと思います。そして、この「アウシュビッツ強制収容所」が平和への第一歩になることを願っています。

(投稿 2005/1/31 MT 様)

「リンクをはらせて頂きました」

初めまして、こんにちは。TM と申します。

私は現在、大学の1年間の交換留学プログラムを通じてドイツで勉強しております。

最近Blogを書き始め日々の何気ないことを綴っているのですが、27日のアウシュビッツ解放60周年記念についてすこしだけ書いてみました。その際「アウシュビッツ」で検索し偶然このサイトにたどり着き、非常に分かりやすい説明だったので私のBlogからリンクをはらせて頂きました。

<http://blog.drecom.jp/ohim-ohime-oshime/archive/23>

事後報告で申し訳ありません・・・大変参考になりました、ありがとうございました。

(投稿 2005/1/29 ドイツ時間 0:15 TM 様)

「やはり許せません！」

こんばんは。またまた、メール送ります。そちらの、「台湾」・「広島・長崎の原爆資料館」・それと、別の方のHP「南京大虐殺」を見ました。「台湾」・「南京大虐殺」の画像や、南京大虐殺の生還者の証言を読みましたが、旧日本軍の兵士は、彼等の方こそ人間のくず以下ですよ。「そんなに、人殺しが楽しいか！！人間の死体を見るのが、そんなにおかしいか！！」と思いながら、画像を見て、読みました。人の命を軽んじて、虐殺・略奪・強姦・強盗その上、人の死体を見て笑うなんて、被害者に対しての冒涇ですね。尋常な精神を持った人は、死体を見て笑うなんて事は、絶対に有りません！！普通の人は、死体を目の前にしたら、号泣するか、怯えるかですよ。

中国での、日本軍の殺戮等の非道の数々は、長編ドラマ、「流転の王妃・愛新覚羅 浩」の実話に、かなり描かれています。そして、日中戦争敗戦後に、日本軍が置き去りにした子供の人生を描いた、「大地の子」。このドラマの中で、主人公は、何度も、「日本鬼子」と言われてます。彼は、人買いから逃げて路頭に迷った所を、優しい、現地の人に保護され、その後、養父母の愛情を受けて育ちます。

ドラマにも有る様に、中国や韓国の人は、戦後、日本の非道な行いを、敢えて許し、国交回復したのだから、人間の持つ、許す力の強さ、偉大さには感動します。家の親が、言っていたのですが、中国や韓国が、国交回復する時、「戦時中、日本から受けた仕打ちは酷いもので、到底許せるものではない。しかし、何時までも過去に捕われていては、お互いに、前に進む事も出来ない。前に進む為に敢えて、日本の過去の仕打ちを許そう。」というのがあったのではないかと。中国や朝鮮・アジア諸国が、日本の行為を許して、天皇がアジア諸国を訪問する度に、謝罪して、友好の為にした努力を、壊す人がいます。今の、ドイツを見習うべきですよ。

広島・長崎の原爆資料館の写真は、写真で見ているだけで、目を覆いたくなります。核兵器の恐ろしさを物語っています。広島・長崎に原爆が投下されたのは、それ以外、当時の日本軍の横行を止め、戦争を終わらせる方法が、なかった、という事だった様ですが、爆弾を投下する以外戦争を集結する方法がない、というのも、悲し過ぎます。ネットや本で、アウシュビッツや西大門刑務所・台湾・南京大虐殺の写真や画像を見ました。私は、気性が激しい人間だけに、ナチスドイツや日本軍の行為に、ショックや悲しみよりも、怒りや憤りを激しく感じます。もしも、私が、被害者の立場になったら、ナチスドイツや日本軍の行為を到底許す事は、出来ないです。

(2004/10/27 投稿 Y さん)

「分からない！」

こんばんは。西大門刑務所のHP見ました。アウシュビッツ強制収容所にしても、西大門刑務所にしても、“そこで、過去に何が行われたか”を、知っている、又は、知れば、二つの建物が、周りを取り囲む緑には、似つかわしくない、おぞましい異物に感じます。

適当な言葉が中々出て来ないのですが、他国へ侵略し、植民地支配をする側は、残虐非道の限りを尽くすものなののでしょうか？人の人権を剥奪し、虐殺や、拷問の限りを尽くし、人を踏みにじった人達は、自分達も、被害者にした事と同じ事をされたら、どう思うのだろうか？と思います。韓国人を、逆さ吊りや水責めの拷問にした人達、アウシュビッツで、ユダヤ人をガス室で、騙して殺した人達、挙げれば数え切れない

いですが、どちらにしても、こんな事をする人は悪魔です。

以前、「世界ウルルン滞在記」で、韓国の農村に滞在した、若者がいました。彼が、滞在した時期は、お盆の 8/15 日辺り、日本では、終戦記念日ですが、韓国では独立解放記念日（正式な名称は、知りません。）に当たる事を、彼は、全く知らなかったんです。日本の歴史を知れば、判る事です。その位、日本人の若者は自分の国のした事を知らないのかも知れないですね。中国・韓国の人達に対する見方は、年配の人と、若い人では違います。年配の方の方が、やはり、中国・韓国の人達に対する差別意識が、有るかも知れないです。

そして、やはりどこか書いて有りましたが、判らないのが、今の、北朝鮮やイスラエルです。かつて、自分達が蹂躪されて、痛みをよく知っている国が、今度は、「目には目を、歯には歯を」と、血み泥の争いをしている事が、解らないし、どうして、話し合いで解決しようとしなのか？と、残念です。しかも、イスラエルは、パレスチナ問題を、血み泥の争いから、平和な話し合いで解決しようとしていた、前ラヴィン首相を殺してしまった…。蹂躪され、痛みをよく知っているのに、何故、自分達が今度は人を傷付けるのか？それが、本当に解らないです。

（投稿 Y さん）

「許せない！」

こんばんは。Y と申します。パソコンが使えないので携帯から感想を送ります。アウシュビッツやベルゲンベルゼンの強制収容所の事は高校生の時から少し知っています。中学・高校と読書ばかりしていました。その時に、写真集と出会いました。それがアウシュビッツの残虐な光景です。公民館に何度も行き本を見ずにいらませんでした。あの時は、写真を見て「これは、絶対に許してはならない、人間のする事じゃない」と思っていました。その思いは今でも同じです。

今日、十何年か振りに、アウシュビッツの写真を見ました。高校生の頃の私が目にした写真や、見落としていた写真を見ました。改めて写真を見て、裸にされシャワーだと騙されて、ガス室で殺された人達の事を思うと、涙が溢れ出してきます。そして、誰かが言っていた様に、銃殺されながらも、必死に自分の事より我が子を庇いながら殺されたお母さんの写真を見たら、本当に、本当にやり切れなくて、何も言葉が出ません……ナチス将校が絞首刑にした被害者の遺体の前で笑っている写真には、激しい憤りが込み上げてきて止まりません…当時のナチスの将校達に会うことが、もしも、出来るとしたら、彼等に「人の命を何だと思っているんですか！？私には、あなた達が悪魔以外の者には見えない！」と言いたいです。そして、ヒトラーやアドルフ・アイヒマン等の幹部以外の、隠れた悪魔達に戦後、自分達の犯した重い罪に気付いたか、（上手く文字に出来ません。）又、罪の償いをしているのか聞きたいです。

戦争・差別・迫害・虐殺は、ナチスだけがしたのではなく、日本人も、中国や朝鮮・アジアの人達を蹂躪しました。ドイツは今、自分の国の犯した罪の大きさを受け止めてひたすら償い続けていますが、日本人は、戦争保証をしてはいますが、中国や朝鮮・アジアの人達に差別的な発言や価値観が未だに無くなっていません。情けないです。

戦後 50 年以上経過した今でも、イスラエルがナチスの戦犯を地の果てまでも、追跡し罪を認めさせ、償わせるのは当然です。ナチスの犠牲となった、数え切れない人達が浮かばれないです……私は、戦争で多くの人が犠牲になるのは、一人の人間の犯す殺人と何も変わらないと思います。

はっきり言って、戦争は、国単位の大量殺人だと思います。感想が長くなりましたが、返信頂けると嬉し

いです。私もいつか、アウシュビッツやベルゲンベルゼン・ビルケナウ等の強制収容所に行き、悲惨な事実を受け止めて、戦争や差別に対して反対の声をあげて行きたいと思っています。

(再送)

昨日の続きです。今日、仕事帰りに公民館に立ち寄り、写真集を見ました。やはり、私には、何故あの様に非人間的というか、悪魔の行いが出来るのか、平和な時代に生まれた私には理解出来ません。

でも、私達は、過去にあった“悪魔の行い”をしっかりと受け止めて、同じ過ちを繰り返さない様に、後の人達に伝える義務があると思います。アウシュビッツやベルゲンベルゼン等の収容所の建物は、そこを訪れる人達に、虐殺された人達の悔しさや、無念さを伝える重要な場所だと思います。

アウシュビッツの元所長ルドルフ・ヘスが戦後、アウシュビッツの絞首刑台で絞首刑にされたのは、そこで彼らナチスに虐殺された、多くの人達にの悔しさや無念さをナチスの党员達に味わわせる為にしたのでないでしょうか…

(再々送)

こんばんは。返事ありがとうございます。私の感想は、そちらのHPに掲載された方達と同じ所が多いと思います。ごく普通の人間として、あんな凄惨極まりない光景を見たら、当然、誰でも、私と同じ事を多くの方は思うでしょう。ただ、誰かが書いてましたが、個人的な殺人と、国家の名の元に行われる殺人とは、違う所があるとありました。その通りですね。

個人的な殺人は、個人の思惑等で行われますが、国家の名の元に行われる殺人は、洗脳されている状態です。この場合、だから、加害者になっても、罪悪感をほとんど感じない人が多いかも知れません。ナチスドイツと日本は、国家の名の元にと、国民を洗脳して、大量殺人を行いました。群衆心理を利用した、とても、恐ろしい事です。

街で時々、広島・長崎の原爆の写真、被爆者の写真を見ます。見せる人は、「広島・長崎の原爆の悲劇を繰り返してはならない」と、毎年、8/6・8/9にはテレビで同じ事を言って、大々的に追悼式典をやっています。私は、勿論、「広島・長崎の原爆の悲劇を繰り返してはならない」と思いますが、でも、日本は、広島・長崎の原爆の事ばかり、取り上げて言う前に、日本が中国・朝鮮や、アジア諸国で行った、大量虐殺や従軍慰安婦や、その他の横行の方こそを、テレビや教科書で、詳しく、みんなに伝えるべきです。今の日本は、「自分の国のした事を、非を、認めていないのに、原爆の事を引き合いに、被害者面をしている」としか、思えません。

戦争は、世界中から、無くなる日が来て欲しいです。メール長くなりましたが「西大門刑務所」見て見ます。アウシュビッツにも、いつか、行って見て、そこで、行われた事を、受け止めて来たいです。実際の現場は、そこであった事は、写真で見た以上に、凄まじい物だと思います。

(投稿 Yさん)

「大変に参考になりました！生涯の目標に役立てようと思います」

僕は神奈川に住んでいる H・T といいます。保育園のころから戦争はいけないものだということを考えていました。実際に僕のおじいちゃんは戦争での経験者であり、又僕にとってのいい先輩でもあるひとです。いろいろと語ってくれます。

アメリカのホロコースト、ナチスのしたジェノサイドこれ以外にも行われている虐待、などこれらは人間としてやってはいけないものだという事を思っていました。僕は平和主義の人間として初めて知った事を話すことにしています。今でも行われているイラク人への暴力などしてはいけないことをまたくりかえしている。世界中での非暴力をあのガンジーのように、そして人種差別をしないあのジョン・F・ケネディーのような人間を目指していこうと思いました。どうも貴重な映像をありがとうございました。

(投稿 HT 君 高三)

「ショックです」

私は新中二の13歳です。道徳の授業の時にアウシュビッツの話が出てきて興味を持ったので(このサイトに)来てみましたがショックでした。恥ずべき問題を知らずに社会に出でしまうから戦争が今でもあるのではないのでしょうか？私は小学校の時からアウシュビッツ収容所の事を知っていましたが自分から知ろうとしなかったことを怖く思います。

(投稿 KK 君 中二)

「衝撃を受けました」

アウシュビッツ収容所をホームページで見て、とても衝撃を受けました。おもわず言葉を失いました。今もイラクでは紛争続きですが改めて平和でいる国に住んでいる幸せと世界が平和になってほしいという気持ちになりました。(略)

(投稿 2004/4/13 HK さん 販売会社営業部員)

「よい資料ありませんか」

新中三です。今、宿題でアウシュビッツ収容所について調べています。そこで、なんでもいいので、資料(犠牲者の人数を示したものなど)を加えなければいけないのですが、なにかいいグラフなどないでしょうか??このサイトでほとんど宿題を終わらせました。☆★ほんとにわかりやすくてためになりました。有難うございました&よろしくお願いします♪

(投稿 SK さん 中三)

「ドイツ兵に射殺される母と幼児の写真に衝撃」

(略) 今日、アウシュビッツ収容所のHPをみせてもらいました。私は恥ずかしながら世界の歴史を余り知らないのこんな残虐なことが起こったことを具体的には知りませんでした。やはりドイツ兵に射殺される母と幼児の写真は涙が溢れるほど衝撃的でした。今当たり前に平和な生活を送っていますが、過去に起きたこういったことは知っておかなくてはいけないと思いました。今からでは遅いかも知れませんがこれから、少しずつでも歴史に関心を持って平和を考えていきたいです。

あと、タバコについてのHPも詳しく書いてあって勉強になりました。主人も見てたので今後、喫煙について考えてくれる事を期待してます。(略)

(投稿 NM さん 主婦)

(サイト・オーナー注:この方は一年前に結婚して、最近母親になった方らしいです。それだけに母子の殺される写真がいちばんインパクトが強かったのでしょう。)

「教えてください」

誰がヒトラーの政策を止めたんですか？ヒトラーは最後どうなったんですか？とても気になるので教えていただけないでしょうか？（第一信）

こんばんわ。メールの返信ありがとうございます。先日アウシュヴィッツについて質問させてもらったMKです。いつもの友達にメールを送るのに慣れてしまって失礼なメールを送ってしまってすいませんでした。ちなみに僕は16歳の高校1年生です。あと好きな教科ですが…歴史ではなく理科です。（笑）最近読んだ本は綿谷りささんの「インストール」と「蹴りたい背中」です。なかなか面白い本でした。僕の自己紹介をするとはっきり言ってそこらへんによくいる高校生です、多分大人が一番嫌いなタイプの高校生です（笑）ピアスも二個開いてるしズボンもずらして歩いています。無駄に髪の毛のえりあしは長いし…どうですか？イメージどうりでしたか？多分イメージよりひどいんじゃないですか？あのメールを見たらイメージとしては子供って思いますよね？（笑）

あとなぜメールを送らせてもらったかちゃんと説明すると、フジTVのドラマでアウシュヴィッツが出ていて母と二人でアウシュヴィッツに興味をもったんです。そしてこの政策の最後、ヒトラーの最後はどうなったのかという話になり僕も母も勉強はさっぱりなので（笑）グーグルなどで検索しネットサーフィンをしていたらあのサイトに辿りついたんです。そして色々見ているうちに母が「聞いた方が早いんじゃないの？」と言い出したのでメールをしたんです。ということでぜひお暇な時でよろしいので母と僕の素朴な疑問の答えを教えてくださいませんか？メールのお返事待ってます。（第二信）

質問のお答えありがとうございました♪♪m（__ __）m

もうちょっとこの歴史について勉強しようかな？と思いました♪♪また自分だけで答えが分からなくなってしまった時にメールすると思います（笑）その時はよろしくお願いしますね。ありがとうございました。失礼します。☆∩(*^_^*)ノ~♪seeyou again♪~ヾ(° -^*)∩☆（第三信）

（投稿 MK君 高一）

「アウシュヴィッツへ行きました」

こんばんわ、私は21歳の大学生のMといいます。アウシュビッツのHP拝見しました。分かりやすく見入ってしまいました。実は私もこの今年の8月の終わりヨーロッパを旅したときにアウシュビッツへ行きました。どうしても行きたかったのです。たったの1泊のポーランドでしたが1ヶ月の旅の中で1番印象に残っています。日本人は私のほか、同じ年頃の男性が一人で来ていました。

私が印象に残っているのは、囚人が描いた絵の中に、ドイツ兵が笑いながら囚人が必死に行進する姿を眺めている絵です。歩けない人を4人ずつで担ぎながら行進しています。アウシュビッツ収容所を象徴する1枚ではないでしょうか。一生忘れられない1枚になりました。

収容所には証拠が多数残っています。多くの墓を見るより、多数の髪の毛を見るほうが私にはインパクトがありました。うそではない現実がここには今もなお残されている。人間の犯した過ちを再認識しました。ビルケナウでは永遠に続くレンガを見ました。そしてトイレだという穴を見ました。

日本からは遠いので、訪れる日本人は少ないと思いますが、私は本当に行って良かったと思いました。行ったから今もこういうホームページを私は真剣に拝見し、多くのことを学んでいるのだと思います。

有難うございました。

(投稿 Mさん 大学生)

「アウシュヴィッツ強制収容所」

・・・中でも印象深かったのは、アウシュビッツ強制収容所のテキストでした。あまりの凄惨さに嘔然とし、読み通した後は（別に「イマジン」を口ずさむわけではありませんが）国境や人類とは何だろうと真剣に考えさせられました。時代さえ違えば、この人たちももっと幸せに生きられただろうに
このような状況の中命を奪われた彼らの無念さは私には到底うかがい知ることが出来ません。ドイツ人が自分たちもそうであるように、「ユダヤ人一人一人にも大切な人や家族がいて、また各人誰かの大切な人である」と思いやることが出来たなら、と残念でなりませんでした。・・・

(投稿 兵庫県 ATさん 大学生)

「アウシュヴィッツ収容所」

私は今日「戦場のピアニスト」を見ました。。すごかったです・・・・・・・・。そしてこのHPに来てみました。写真を見ていると涙が出ましたああ!!すごく悲しくなりました・・なんで人を簡単に殺せるんだろうお・・と思いました!!!!!! 何万人もの人を殺して笑ってる・・・・・・・・。。

「戦場のピアニスト」を見ても思いました!!どうしてそんな事が出来るんだろう わたしは絶対にそんなことはできないと思いました。戦争は何もかも奪ってしまっってえ・・・許せない。今日本に産まれてくるひとは十分幸せだとおもいましたあ！いまは世界中の人が忘れてはけない過去であって繰り返し替えてはいけない未来だあと感じました。

(投稿 Mさん 生徒)

「アウシュヴィッツの写真を見て」

・・・撮られたアウシュビッツの写真は壮絶で、今も尚、そこで行われた残虐な行為が建物に刻みこまれているような印象を受けました。サンクトペテルブルグのペトロパブロフスキー要塞を訪ねた時に、帝政時代、共産主義時代の牢獄を見学しました。文豪マキシム・ゴーリキーも投獄されていた場所です。アウシュヴィッツの風景は少し、この牢獄の感じに似ていると思いました。収容された多くは無実の人たちの無念が周囲に漂っているような気がして、居たたまれなくなりました。しかし、1日30分、囚人によっては散歩を許されたという狭い中庭に出たときに、中央に記念碑が立っているのが見え、そこに書いてある文字を読み、少し救われました。

「ここで苦しみ、命を落とした我が国の英雄達へ捧ぐ」英訳はなく、多くの国外旅行者は気にも留めずに歩いていましたが、これを読めば、ロシア国民の本当の気持ちが分かってもらえるのにな、と残念でした。（ロシア人の人格は世界各国でもものすごくネガティブにしか語られていない気がします。観光客の態度もいかにもそんな感じで、滞在中がっかりしたことが多かったのです。）

しかし、アウシュビッツは強制収容所であり、ペトロパブロフスキーに収容された人たちと異なり、自らの信念の為に囚われたわけでもなく、人権まで剥奪されていたのですから…。想像するだけで、私などは訪れる勇気が削がれてしまいそうです。

こちらのニュースでドイツ人の中高生が、収容所の見学に行く姿が終戦記念日などに度々放映されるの

ですが、インタビューを受けた子供が、「私たちは私たち国民が過去に犯した過ちを知らなければいけない。」と発言する様子には心を打たれます。

ドイツ人はしっかりと自分達の歴史と向き合っています。スポーツ選手等の有名人でも「私たちには償わないといけないことがある。」と積極的にユダヤ人迫害について語るのには驚きました。

ドイツ国民の多くが戦争に反対するのは、こんなところにも理由があるのではないのでしょうか。また反対に、不幸な歴史を生き抜いたユダヤ系の人々が、事情はどうであれ、現在パレスチナ人の虐殺を容認している事実には、失望を隠せません。・・・

(投稿 フランス・パリ HYさん OL)

(前後の省略以外は原文のママ)

「アウシュビッツ収容所」の感想

・・・ホームページ少しずつ見えています。アウシュビッツの写真が衝撃的です。プラハのユダヤ人墓地でもけっこう衝撃受けましたが、全然比になりませんでした。

HPでもおっしゃってましたが私たちが絶対に忘れてはいけない歴史ですし、是非現地に見に行ってみたいと思いました。雰囲気想像しただけでちょっとウツになりましたけど。＃とはいえ、しばらく旅行は出来ませんが・・・お墓のページも見ました。個人的にはマーラーが好きなので今度ウィーンに行くときは是非寄ってみますね・・・

(投稿 茨城県在住 HIさん 大学院生)

(サイト・オーナー注：この方はチェコのプラハの「ヴィジェフランド墓地」で偶然に出会った方です 旅大好きヤングです このサイト内の「ポーランド・チェコ旅日記」に登場します→「見つけたぞ！アンチエルのお墓」

「アウシュビッツ強制収容所」との相互リンクについて

(メール HP「或る中尉の手記」の webmaster、SAさん)

はじめまして。「或る中尉の手記」の webmaster・SAと申します。たいへんに素晴らしいサイトで、感動いたしました！ぜひとも当方よりもリンクさせていただきたく思いますので、よろしく願い申し上げます。今後の貴サイトのご発展を祈念いたします。

(2003/5/2 「或る中尉の手記」の webmaster・SA氏)

「当社サイト内記事へのリンクについて」

アウシュビッツ収容所博物館元館長/カジミシ・スモーレニ氏の証言

メール、及びHPを見させていただきました。アウシュビッツを風化させてはいけないという思いから当社では長年にわたりツアーを企画しております。貴方がページを作られたのも同じ気持ちからではと察せられました 私どもの資料でよろしければ、どうぞリンクしてください。よろしくお願いいたします。

5月6日

.:~:・'☆。.:~:★° Horizon Travel Inc.・☆。.:~:・'° ★° '・

〒150-0031 東京都渋谷区桜丘町 15-4 ルート桜丘ビル 3F

TEL03-3770-0149, FAX 03-3770-0728

E-Mail:Support@aht.co.jp, Horizon 本社 URL: www.aht.co.jp

Air Ticket & Package Tour URL: www.ahtravel.jp

海外傷害保険申込 www.aht.co.jp/yasuda/index.htm

.:~:・'° ☆。.:~:・'° ★° '・.:~:。.:~:~:・'° ☆。.:~:・'° ★°

貴重なご意見をお寄せになった皆様、ありがとうございました

このサイトの「アウシュヴィッツ強制収容所」を見ていただいた方で

ご感想等ある方は下からメールできます（実名でお願いします）

←クリックすると、メールページにつながります

(参考)

1939年9月1日、ナチス・ドイツ軍はポーランド領に侵攻しました。同9月3日イギリスとフランスがドイツに宣戦布告し、ここに「第二次世界大戦」が始まりました。同年10月6日、ドイツとソ連は実質的にポーランド全土を占領しました。その40日後に、ユダヤ人に出された「命令」が下の物で、時間からして、このような「計画」が前もって用意されていたことがよく分かります。

「ユダヤの血が入った12歳以上のすべての者」に対する「命令書」

左の命令の日本語部分訳
(多賀照子訳)

指 令

クラクフ地区におけるユダヤ人の標識

1) ユダヤ教共同体に所属する人
または所属していた人
2) 父親または母親がユダヤ教共同体に
所属するか、していた人
目じるしとして服やヤッケの二の腕に、
白地に青のシオンの星*をつけた腕章を
付けるべきである。白地の幅は少なくとも
10センチ以上なければならない。
シオンの星は(この間文字読取困難)
少なくとも8センチ離れた大きなもの
でなければならない。

上半分がドイツ語、下半分がポーランド語
1939年11月18日付
クラクフ地区ドイツ軍司令官発令

*「シオンの星」=
*「ダヴィデ(ダビデ)の星」とは？

(関連参考写真)



ポーランド占領直後、
首都ワルシャワを行進するドイツ兵

10月5日、**ヒトラーの観閲**のもと、ワルシャワ市中心部のウヤズドフスキェ大通りをパレードするドイツ兵。この写真はレニ・リーフェンシュタールによって撮影された。パレードの間、**ドイツ要人の暗殺を避けるためワルシャワ市民は外出を禁止され、412人の民間人が人質にされた。**

フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』
「ポーランド侵攻」より